



くものいと No. 39

KUMO NO ITO

2006 September 30

関西クモ研究会

大阪府茨木市

くものいと

No. 39, Sep. 2006

研究報告

- 1 溪流上に造網するオオシロカネグモの水面への落下を避ける行動
関根 幹夫
- 4 2種共存域におけるアシナガグモとヤサガタアシナガグモの造網場所選択
吉田 真

クモリスト

- 11 採集散策日記～畝傍山(大学卒業研究採集分)～
赤松 史憲
- 27 カトウツケオグモをゲット
- 28 奈良県吉野郡天川村洞川のクモ
池田 勇介
- 29 佐賀合宿(2005年7月30日～8月1日)で採集されたクモ
吉田 真
- 32 大津市打出浜のクモ
梶元とも子
- 34 宮城県におけるコアシダカグモの記録
加村 隆英
- 36 大阪府高槻市市街地のクモ2種
加村 隆英
- 37 アシダカグモの出没する家
吉田 真
- 38 龍谷の森で採集された6眼のクモ
吉田 真
- 39 京都・嵐山のクモ
吉田 真

観察・採集報告

- 41 自宅の庭(大阪府富田林市藤沢台)で、ヒゲナガツヤグモ発見
田中 穂積
- 42 オスを襲うヒトエグモのメス
吉田 真
- 45 本当はみんな知りたい“クモ”のこと
飯田 博之
- 47 セアカゴケグモに咬まれて
池田 勇介
- 50 2ヶ月余り同じ場所で網を張り続けたキジロオヒキグモ
船曳 和代
- 51 新刊紹介
加村 隆英

チャレンジ

- 52 『網の標本』に挑戦—失敗の巻(誰もが通る?)—
黒田 あき
- 55 「熱中時間～忙中“趣味”あり～」テレビ出演体験記
船曳 和代
- 65 関西クモ研究会 2005年度例会の記録
- 66 関西クモ研究会 2005年度会計報告
- 67 関西クモ研究会 会費納入のお願い

研究報告

溪流上に造網するオオシロカネグモの水面への落下を避ける行動

関根 幹夫

The behavior of *Leucauge magnifica* weaving its webs above streams,
avoiding dropping into the water.

Mikio SEKINE

I observed how the orb web spider, *Leucauge magnifica*, avoided dropping into the water on July 4, 2006 in Nara Prefecture. It was sunny and the temperature was 31°C. The female *Leucauge magnifica* (with a length from 14mm to 15mm) with its own silk dragline tended to climb up to avoid dropping into the water without touching the water. All the spiders, *L. magnifica*, were weaving their webs above streams.

Then I painted all the eyes of the spider black in enamel paint. The blind spider also climbed up to avoid dropping into the water without touching the water. So, perhaps *L. magnifica* is aware of the surface of the water without its eyes.

I wish to express my hearty thanks to Dr. Makoto Yoshida for critical reading of the manuscript of this paper.

要 約

オオシロカネグモは、体が水面に触れる前にしおり糸を手繰って上に登り水面への落下を避けることが多かったが、全ての眼を黒く塗りつぶした場合も同様の傾向が見られた。オオシロカネグモは、水面を眼で認識するのではないと思われる。しかし、水面を眼で認識していると思われる個体もあり、今後の検討が必要である。

序 論

草原に造網するコガネグモはしおり糸を曳いて水面に降りてきたとき、その第1脚が水面に触れるとしおり糸を手繰って上に登り、水への落下を避けている(関根, 2005)。一方、溪流上に造網するオオシロカネグモでは、水面に触れる前にしおり糸を手繰って上昇することが多い。溪流上に造網するクモは、水面をどのように認識しているのだろうか。

材料と方法

実験には、体長 14mm~15mm の 5 頭のオオシロカネグモの雌 (No1~No5) を用いた。クモを棒にとり、この棒から約 60cm 下に水を張った容器 (縦 23cm×横 30cm×深さ 10cm) を置いた。そして、棒からしおり糸を曳いて降りてきたクモの行動を観察した。次いで、これらのクモをドライアイスを入れた密閉容器に 2~3 分間入れて麻酔をした後、クモの全ての眼を黒のエナメル塗料で塗りつぶした。眼を塗ったクモは、1~2 分後には麻酔から醒めるので、このクモを使って同様の実験を行った。2006 年 7 月 4 日の 10 時~14 時に、奈良県生駒市乙田で観察した。なお、5 頭のオオシロカネグモは、全て溪流上に造網していたものである。気温は 31℃、天候は晴れであった。

結果と考察

しおり糸を曳いて水面近く降りてきたオオシロカネグモの行動の観察結果を表に示す。

表 1 オオシロカネグモの下降・上昇行動。1'~5'は眼を全て黒く塗りつぶした場合である。A: 水面に触れず、しおり糸で上に登った、B: 水面に触れた後、しおり糸で上に登った、C: 水中に没した。

クモの 行動	クモ番 号						クモ番号 (処理 後)					
	1	2	3	4	5	計	1'	2'	3'	4'	5'	計
A	3	6	6	5	6	26	4	4	6	5	5	24
B	2	0	3	0	0	5	1	3	4	0	2	10
C	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
合計	6	6	10	5	6	33	5	7	10	5	7	34

すべてのクモが「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動を示した。ただし、No.2, No.4, No5 が「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動のみを示したのに対して、NO.1 と No.3 は「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動だけでなく「水面に触れた後、しおり糸で上昇する」行動や「水中に没する」行動も示した。水面に触れなかった場合には、クモはしおり糸を曳きながらクモの体が水面に触れないように水面との距離を一定に保った後、しおり糸を手繰って上に登った。しおり糸を曳いたクモと水面との距離は、およそ 1cm~5cm であった。

クモの眼を黒く塗った場合には、「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動や「水面に触れた後、しおり糸で上昇する」行動は見られたが、水中に没することはまったくなかった。

個体別に見ると、眼を黒く塗る前と後で行動に変化が見られなかった個体と、行動に変化が見られた個体があった。No.4は、前と後のいずれの場合にも「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動のみを示した。また、No.1とNo.3は眼を塗った後では水中に没しなかったが、前と後のいずれの場合にも「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動と「水面に触れた後に、しおり糸で上昇する」行動を示したので、前と後であまり行動に変化が見られなかったと言ってもいいだろう。

これに対してNo.2とNo.5は、塗る前には「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動のみを示したが、後には「水面に触れた後、しおり糸で上昇する」行動も見られた。前と後で行動が変化したのである。

これらの結果をどのように解釈すべきであろうか？オオシロカネグモの雌が水面に触れることなくしおり糸を手繰って上に登った率は79% (26/33)であり、眼を全て黒く塗りつぶした場合は71% (24/34)である。これらの比率に大差がないことから、眼を黒く塗りつぶしたクモは、眼を塗りつぶしていないクモとほぼ同様の行動をとるようにみえる。この点を重視すれば、オオシロカネグモは、水面を眼で認識しているのではないと解釈できる。

しかし、「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動のみを示していた個体が、後には「水面に触れた後、しおり糸で上昇する」行動も示すようになったという結果を重視すれば、「眼が見えなくなったので、脚先で水面を確認するようになった」という解釈も成り立つかもしれない。これが正しければ、オオシロカネグモは水面を眼で認識していることになるかもしれない。

ところがこの解釈は、他の個体のデータと矛盾する。前と後のいずれの場合にも「水面に触れず、しおり糸で上昇する」行動のみを示した個体がいることは、眼が見えなくとも水面に触れる前に水面を感知できることを示唆している。

このように、オオシロカネグモの水面落下回避行動には謎が多く、その解明には今後の更なる実験が必要である。

謝辞

今回、この研究をまとめるにあたって、吉田真博士から有益な助言を頂いたことに心から感謝の意を表します。

参考文献

関根幹夫, 2005. コガネグモの水面への落下を避ける行動について. くものいと.38:1-3.

2種共存域におけるアシナガグモとヤサガタアシナガグモ の造網場所選択

吉田 真

はじめに

アシナガグモ（以下はアシナガと呼ぶ）が庭や神社などの水辺以外の場所にも造網するのに対して、ヤサガタアシナガグモ（以下はヤサガタと呼ぶ）はほとんど例外なく水田・池・水路などの水面上に造網する。しかし、水辺では両種は共存していることが多い。今回は、共存地域で両種がどのような造網場所を選択して



図1 長代川

いるかを報告し、両種の共存のあり方について議論する。

調査地と方法

京都市左京区岩倉を流れる長代川で、1979年の4月7日、6月6日、8月12日および16日に調査を行った。これは田園地帯や集落の間を流れる川幅2～3mの川で、生活排水などが流れ込むために川の水は濁っている。流れはゆるく、フナやカワムツなどの魚類が生息する中流域である。

図1は2005年5月5日の写真であるが、景観は調査当時と大差はない。川岸には、アラカシなどの樹木や灌木、イタドリ・アカソ・スキなどの草が生えているが、川面全体を覆うほどではなく、日陰は少ない。春にはイタドリ・アカソ

などの、前年に枯れた枝葉が目立つが、夏になると草丈が高くなり、枯れた枝葉は草の中に埋もれて、目立たなくなる。

水平円網を張るアシナガグモ科のクモは、アシナガとヤサガタ以外にはオオシロカネグモとウロコアシナガグモが生息していたが、それらの密度はきわめて低かった。

今回は、アシナガとヤサガタの網サイズ(4月と8月)、造網足場の種類(6月と8月)、造網位置(4月、6月、8月)について調査を行った。また、網の持ち主であるクモを実験室に持ち帰り、その体長を測定した(4月と8月)。

結果

1) 造網足場

2種ともに、さまざまな種類の草(クズ・ヨモギ・ススキなど)や枯草、枯木などを足場として造網していた。ヤサガタは、6月、8月ともに草をもっとも頻繁に利用しており、枯草(枯木)の利用は少なかった。これに対してアシナガは、6月には枯草(枯木)をもっとも頻繁に利用していたが、8月には草の利用が多くなった。アシナガはまた、同種他個体が張った網を足場として利用することもあった。8月16日には、アシナガの53%(9/17)が兩岸の足場を使って網を張っていた(表1)。

表1 ヤサガタアシナガグモとアシナガグモの造網足場の選択。数字はクモ数(%)を示す。「兩岸」は兩岸の足場を使って張られた網。

月日	種	草	枯草・草	枯草(木)	草・網	合計	兩岸
6月6日	ヤサガタ	26 (62)	10 (24)	6 (14)	0 (0)	42	1
	アシナガ	4 (18)	5 (23)	13 (59)	0 (0)	22	2
8月12日	ヤサガタ	19 (58)	8 (24)	6 (18)	0 (0)	33	-
	アシナガ	14 (82)	1 (6)	0 (0)	2 (12)	17	-
8月16日	ヤサガタ	13 (76)	3 (18)	1 (6)	0 (0)	17	3
	アシナガ	13 (76)	1 (6)	1 (6)	2 (12)	17	9

2) 造網位置

多くの場合、造網は水面上の空間になされたが、4月7日にはアシナガ13匹のうち6匹が、ヤサガタ21匹のうち1匹が、8月12日にはアシナガ17匹のうち1匹が、川岸に造網していた。図2は、6月6日の造網位置を図示したものである。この日はすべての個体が水面上に造網していた。ヤサガタが岸から近く低い位置に造網していたのに対して、アシナガは岸から離れた高い位置に造網してい

たように見える。

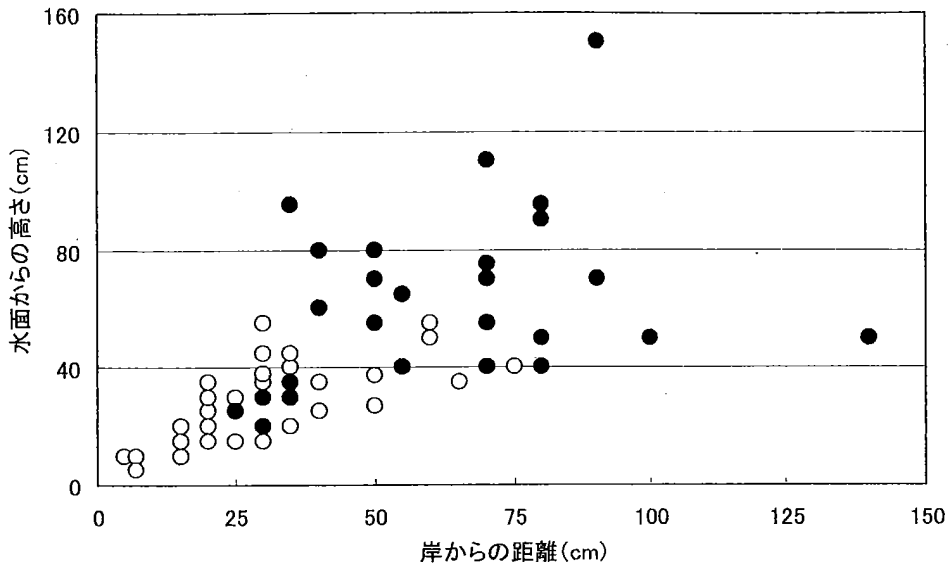


図2 ヤサガタ (○) とアシガタ (●) の造網位置。

表2 ヤサガタとアシナガの造網位置. 水面上に造網したもののみについて示す. 数字は平均±標準偏差。

月 日	種	川岸からの距離(cm)	水面からの高さ(cm)	クモ数	川岸に造網したクモ数
4月7日	ヤサガタ	15.5±7.9	15.8±5.9	20	1
	アシナガ	15.0±10.4	54.3±21.5	7	6
	p	0.46	0.0017		
6月6日	ヤサガタ	30.8±14.8	29.6±12.4	42	0
	アシナガ	70.7±22.7	70.9±26.3	22	0
	p	1×10 ⁻⁸	1×10 ⁻⁷		
8月12日	ヤサガタ	28.8±14.0	23.4±16.3	33	0
	アシナガ	49.1±34.1	76.9±29.0	16	1
	p	0.0176	6×10 ⁻⁷		
8月16日	ヤサガタ	32.6±20.4	24.6±23.3	17	0
	アシナガ	72.9±38.7	88.8±33.7	17	0
	p	0.0004	3×10 ⁻⁷		

そこで, 水面上に造網したクモについて, 調査したすべての日について, 2種

の造網位置を比較してみた(表2)。

4月7日には、水面上に造網した個体に限れば、岸からの距離に両種の差はない($p=0.46$)。しかし、この日にはアシナガの半数弱が川岸に造網しているから、むしろ平均的にはアシナガの方が岸寄りに造網しているといってもいい。これに対して、水面からの高さには大きな違いがあり、アシナガはヤサガタより高い位置に造網していた($p=0.0017$)。

6月6日になると、状況は一変した(図2参照)。岸からの距離と水面からの高さは両種ともに4月7日よりも増大しており、ヤサガタは距離・高さともに約2倍の増加、アシナガは川の上に造網したもので比較しても距離で4倍以上の増加が見られた。しかし、両種を比較すると、ヤサガタが岸よりの低い位置に、アシナガは岸から離れた高い位置に造網するようになった($p<0.001$)。つまりアシナガは、岸よりから川を中心よりの空間に造網場所をシフトしたのである。8月に入っても、この傾向に変わりはない(表2)。

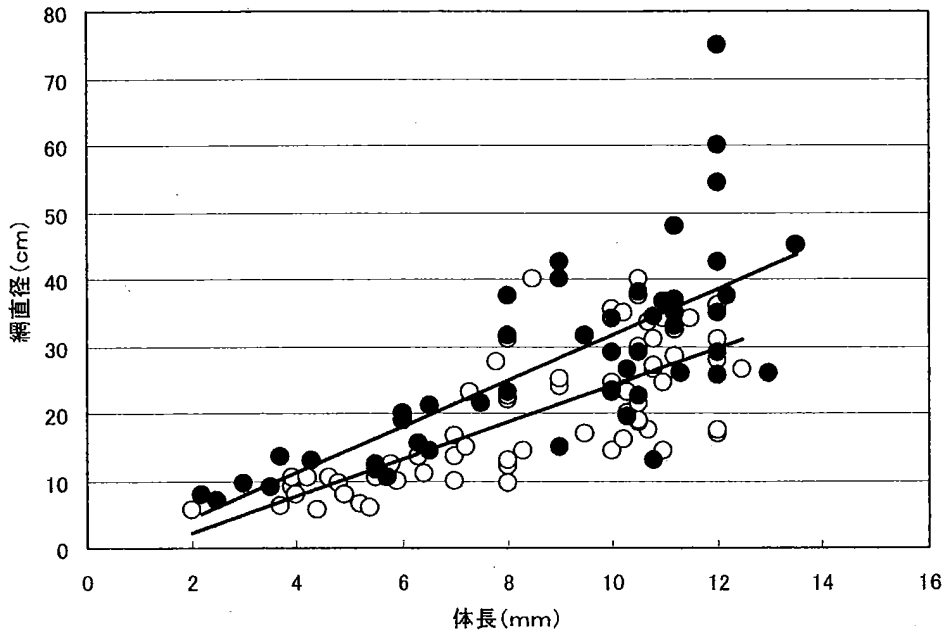


図3 体長と網直径の関係。○はヤサガタを、●はアシナガを、直線は回帰直線を示す。

3) 体長と網サイズ

図3は、体長と網サイズの関係について調べたものである。どちらの種でも体長が大きいほど大きな網を作り、同じ体長ではアシナガがヤサガタより大きな網

を作った (ANCOVA, $p < 0.0001$) が, 回帰直線の傾きについては有意の差はなかった (ANCOVA, $p = 0.2165$)。回帰式から, 体長 10 ミリのクモが作る網の平均直径は, アシナガで 32 センチ, ヤサガタで 24 センチ程度と計算された。

図 4 と図 5 は, 体長—網サイズの関係の季節変化を示したものである。ヤサガタでは, 4 月ははじめには体長 2—8mm の小さな個体が多く, この日に張られた網の直径は 15 cm 以下であった。網サイズのばらつきは比較的少なかった ($r = 0.73$)。これに対して, 8 月の個体群は 6—12.5mm の個体で構成されており, 網サイズのばらつきは著しく ($r = 0.40$), 体長 8mm のクモは直径 10cm から 30cm を超える大きな網まで, さまざまなサイズの網を作った (図 3)。

これに対してアシナガでは, 4 月には体長 2mm から 10mm 強のさまざまなサイズのクモがいたが, 網はやはり小さく, 網直径は 20cm 以下だった。網サイズのばらつきは比較的少なかった ($r = 0.81$)。これに対して, 8 月の個体群は 6—13.5mm の個体で構成されており, ヤサガタと同様に, 網サイズのばらつきは著しかった ($r = 0.43$)。8 月 16 日に兩岸の足場を使って張られた 9 つの網の直径 (平均±標準偏差) は 34.1 ± 7.3 cm, 片側の足場のみの 8 つの網の直径は 24.3 ± 6.3 cm で, 前者の方が大きかった ($p < 0.01$)。

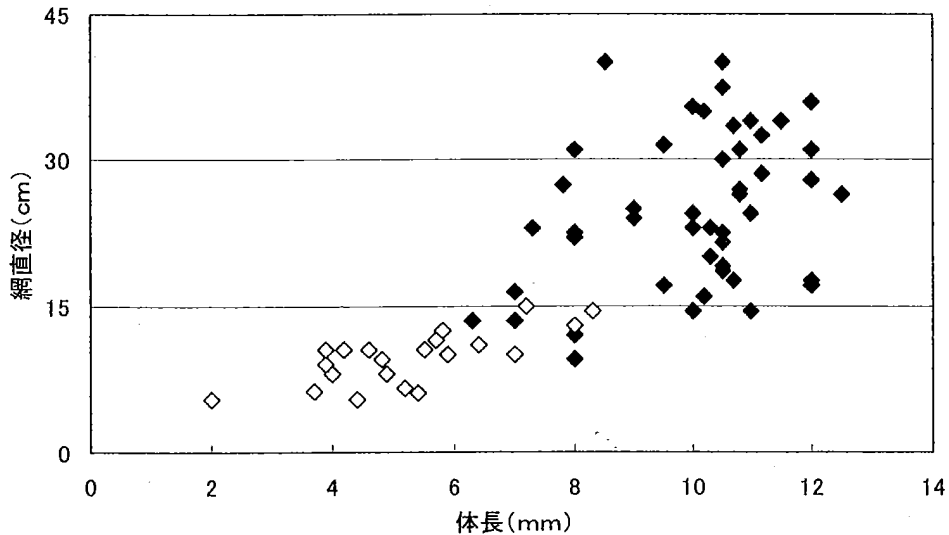


図 4 ヤサガタの体長—網サイズ関係の季節的变化。白抜きは 4 月, 黒塗りは 8 月のデータ。

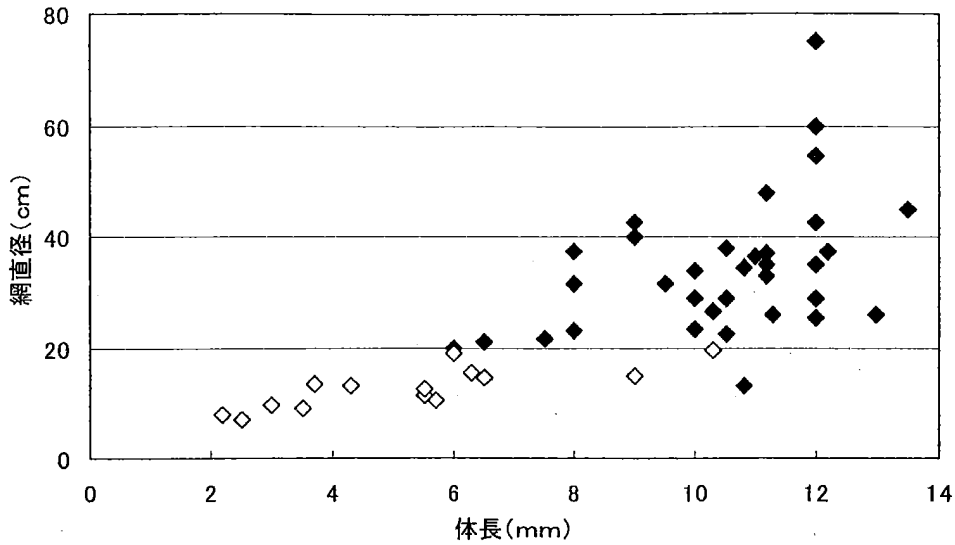


図5 アシナガの体長—網サイズ関係の季節的变化。白抜きは4月，黒塗りは8月のデータ。

考察

両種の生息密度が高く、同じような場所に造網するなら、両者の種間競争は激しいものと予想される。しかし、今回報告したように、同じ場所に生息してはいても、長代川における両者の生息場所は微妙に異なっている。

両種の微妙な「すみわけ」はどのようにしてなされるのであろうか？ヤサガタはほとんど例外なく水面上の空間に造網する。造網足場に草を好んで用い、川岸近くの低い位置に造網する。この種の造網場所のこのような傾向は、季節が異なっても一貫してあまり変わらないように見える。4月には岸近くの低い位置に造網していたヤサガタは、6月になると、成長に伴う網サイズの増大と関連して、川岸から離れたやや高い位置に造網するようになる。しかしヤサガタは、アシナガに比べればやはり川岸近くの低い位置に造網する。アシナガの網がヤサガタより大きいことが、川岸から離れた広い空間へのアシナガの造網を可能にしているのかもしれない。

筆者はすでに、北海道の幌内川で7月から8月にかけて行なった調査で、両種が共存する場合には、ヤサガタがおもに草を足場として低い位置に、アシナガがおもに灌木の枝先を利用して高い位置に造網することを報告している (Yoshida 1981)。

これらのことから、幌内川や長代川のような川幅が2—3mで両岸に草や灌木が繁茂する河川では、両種の競争はほとんどないか、もしあっても激しくはない

と予想される。

長代川における両種の微妙な「すみわけ」は、おもにアシナガによって調整されているように見える。アシナガは、季節の推移とともに造網足場や造網場所を変えていく。アシナガは4月には川岸で造網することも多かった。ヤサガタは川岸にはほとんど造網しないから、ここでは種間競争は起こらない。川の上では、この時期には両種ともに川岸近くに造網することが多いが、水面からの高さが異なるために造網空間をめぐる競争は起こりにくい。6月以降にはアシナガはほとんど専ら川の上に造網するようになるが、川岸から離れた高い位置に造網するために、やはり競争は起こりにくい。他の河川での観察では、網への進入・網の破壊・餌盗みなどの2種間の個体間干渉はほとんど見られない(吉田, 未発表)。

それでは、アシナガによる「調整」はどのようになされるのだろうか? 4月には川岸の草はまだ丈が低く、アシナガは枯れたイタドリなどの枝先を利用して造網することが多い。川に向かって張り出したイタドリは川の上に造網するアシナガの格好の足場であり、これを使えば川の上のやや高い位置に造網できる。このようにしてアシナガは、草を足場に低い位置に造網するヤサガタと共存することができる。

6月にアシナガが川の上に造網するようになるのは、クモの成長による網サイズの増大と植物の成長による茎や枝の張り出しと関係していると思われる。この時期には、兩岸の足場を使った網がはじめて出現する。そして8月には、アシナガの半数は兩岸の足場を使って造網するようになる。8月における網サイズのばらつきの一因は、兩岸の足場を使った、体長に比して大きな網が張られることによるとと思われる。山地溪流でタニマノドヨウグモの網にかかった餌を調べたところでは、岸近くよりも流心部の上に張られた網により多くの餌がかかっていた(吉田, 1977)。長代川などでも同じような傾向があるのなら、兩岸の足場を使って造網することはより多くの餌の獲得につながるのかもしれない。

謝辞

この報告を書くに当たっては、統計処理などについて楳元敏也さんにご教示いただいた。ここに記して、深く感謝するものである。

引用文献

- 吉田真, 1977. 溪流付近に生息するクモ4種の造網場所選択—餌量を中心とした共存条件についての一考察. *Acta arachnol.* 27 (special number): 261-281.
- Yoshida, M. 1981. Preliminary study on the horizontal orb weavers, *Tetragnatha praedonia*, *T. japonica* and *T. pinicola* (Araneae: Tetragnathidae). *Acta arachnol.* 30: 49-64.

クモリスト

採集散策日記～畝傍山(大学卒業研究採集分)～

赤松 史憲

以前から奈良県のクモ採集記録が少ないと聞いていましたし、大学(学部)での一論文の記録のままではなかなかデータの共有が難しい事から、今回この場をお借りして私の卒業論文(2003年滋賀県立大学学部生)でのクモ採集について書かせていただきたいと思います。

記録の表記は以下のように、種名・学名に続いて採集月日(いずれも2003年)、個体数、成体は性別(♀/♂)、幼体はyと記載しました。また、採集者は全て赤松史憲で、種名が確定できなかった個体については、今回省略しました。学名は日本産クモ類目録(谷川明男 2005年 web版)を引用させていただきました。(ヒメカラスハエトリについては記録を記載しました)

採集地・・・畝傍山

畝傍山は奈良県北部、奈良盆地(北緯 34 度 22 分、東経 135 度 47 分)に位置する、東西・南北共に約 700m、面積およそ 41ha、標高 199.2m の小規模な死火山です。植生については標高が 100m 付近より高い地域にアラカシやヤマモモ、アカマツなどから成る広葉樹林が広がっています。一方標高が 100m より低い地域にはスギやヒノキの植林地がみられます。その植林は昭和 30 年代～50 年代にかけて行われたものです。しかし現在植林地で下草刈り等の管理は基本的になされておらず、一部のヒノキ林内にモウソウチクの侵入がみられます。

タナグモ科Agelenidae

イナズマクサグモ *Agelena labyrinthica* (Clerck 1758)

(6月6日)1y

(7月4日)1y

クサグモ *Agelena limbata* Thorell 1879

(4月13日)1y

(5月6日)3y (5月9日)4y

(6月4日)1y (6月5日)4y (6月6日)18y

(7月4日)7y

(8月13日)2y

コクサグモ *Agelena opulenta* L. Koch 1878

(7月4日)5y (7月6日)3y
(8月7日)1y (8月11日)1y (8月19日)1y
(9月8日)1♀
(10月10日)1♀

ガケジグモ科 *Amaurobiidae*

ヤチグモ *Coelotes exitialis* L. Koch 1878

(8月5日)1y (8月11日)1y
(10月18日)1♂4y

カミガタヤチグモ *Coelotes yaginumai* Nishikawa 1972

(6月4日)1♀
(10月17日)4♀4y (10月18日)1♀

ヨリメグモ科 *Anapidae*

ヨロイヒメグモ *Comaroma maculosa* Oi 1960

(6月5日)2♀
(7月3日)1♀ (7月13日)1♀
(8月11日)6♀3♂
(9月6日)5y

イツツグモ科 *Anyphaenidae*

イツツグモ *Anyphaena pugil* Karsch 1879

(4月13日)1♀1y
(5月5日)2♀
(6月6日)3♀
(8月7日)1y
(9月8日)2y
(10月10日)2y

コガネグモ科 *Araneidae*

ハツリグモ *Acusilas coccineus* Simon 1895

(4月13日)6y
(5月9日)1♀1y
(6月5日)1♀ (6月6日)2♀2♂
(7月6日)1y (7月13日)1y
(8月11日)2♀21y (8月19日)8y

- (9月4日)2♀4y (9月8日)4♀1♂15y
(10月10日)3y (10月17日)15y (10月18日)7y
キジロオヒキグモ *Arachnura logio* Yaginuma 1956
(6月15日)1y
(9月8日)1♀
(10月16日)1♀1♂
ビジョオニグモ *Araneus mitificus* (Simon 1886)
(8月11日)1y
アオオニグモ *Araneus pentagrammicus* (Karsch 1879)
(5月6日)1y (5月9日)1y (5月22日)2y
(7月6日)1y (7月8日)1y
(8月11日)1♂6y (8月13日)4y (8月19日)1y
(9月4日)1y (9月7日)1♀ (9月8日)1y
(10月10日)2y (10月17日)5y (10月18日)1y
ムツボシオニグモ *Araniella yaginumai* Tanikawa 1995
(4月13日)1y
(5月9日)1y
(6月5日)1♀
(8月11日)1y
コガネグモ *Argiope amoena* L. Koch 1878
(5月5日)15y (5月6日)1y (5月9日)7y
(6月3日)3y (6月4日)2y (6月5日)10y (6月6日)22y
(7月4日)20y (7月6日)14y
(8月11日)2♀2y (8月19日)2♀4y
(9月4日)5♀ (9月7日)1♀ (9月8日)1♀ (9月9日)1♀
ヤマトカナエグモ *Chorizopes nipponicus* Yaginuma 1963
(4月7日)1y
(5月5日)1y
ギンメッキゴミグモ *Cyclosa argenteoalba* Bösenberg & Strand 1906
(4月13日)14y (5月9日)1y
(6月6日)1y
(7月4日)6y (7月6日)18y (7月8日)1y (7月11日)2y
(8月7日)3y (8月11日)4♂9y (8月13日)2y (8月19日)4y
(9月4日)22y (9月7日)3y (9月8日)27y (9月9日)1♀14y (9月15日)9y
(10月10日)5y (10月15日)3y (10月16日)5y (10月17日)1♂28y
(10月18日)11y

ギンナガゴミグモ *Cyclosa ginnaga* Yaginuma 1959

(10月10日)1y (10月17日)14y (10月18日)3y

キジロゴミグモ *Cyclosa laticauda* Bösenberg & Strand 1906

(8月13日)1y

(9月8日)1y

(10月10日)3y (10月17日)1♀3y (10月18日)1y

ヤマゴミグモ *Cyclosa monticola* Bösenberg & Strand 1906

(4月13日)1y

(5月6日)1y

(7月4日)1♀ (7月6日)2y

(8月3日)2y (8月11日)12y (8月19日)11y

(9月4日)10y (9月8日)3y

(10月16日)1y

ゴミグモ *Cyclosa octotuberculata* Karsch 1879

(9月9日)1y

(10月17日)1y

シマゴミグモ *Cyclosa omonaga* Tanikawa 1992

(4月13日)1y (7月11日)1y

(8月7日)2♀ (8月11日)2♀2♂ (8月13日)1♀1y (8月19日)1y

(9月4日)6y (9月7日)5y (9月8日)3y (9月9日)1y

(10月16日)1♀ (10月18日)1♀

ヨツデゴミグモ *Cyclosa sedeculata* Karsch 1879

(4月7日)1y (4月13日)2y

(5月5日)1y

(7月4日)4y

(8月13日)1y (8月19日)20y

(9月4日)5y (9月7日)1y (9月8日)1y

(10月10日)6y

マルゴミグモ *Cyclosa vallata* Keyserling 1886

(7月4日)1♀1y

スズミグモ *Cyrtophora moluccensis* (Doleschall 1857)

(8月7日)1♀

カラフトオニグモ *Eriophora sachalinensis* (S. Saito 1934)

(4月13日)1♂12y

(5月5日)2y (5月9日)1♀

(6月7日)1♀

- (7月11日)1y
(8月7日)9y (8月11日)16y (8月13日)2y (8月19日)9y
(9月4日)11y (9月7日)6y (9月8日)5y
(10月10日)9y (10月15日)2y (10月16日)2y (10月17日)7y (10月18日)1♀1y
ナカムラオニグモ *Larinioides cornutus* Clerck 1758
(4月9日)1y
ワキグロサツマノミダマシ *Neoscona melloteei* (Simon 1895)
(6月6日)5y
(7月11日)1y
(8月13日)2y
ヤマシロオニグモ *Neoscona scylla* (Karsch 1879)
(6月5日)1y (6月6日)1y
サツマノミダマシ *Neoscona scylloides* (Bösenberg & Strand 1906)
(6月12日)1y (6月15日)1y
(7月4日)1y
(9月9日)1♀

フクログモ科 *Clubionidae*

- マイコフクログモ *Clubiona rostrata* Paik 1985
(5月2日)1♂ (5月4日)4♀9♂24y (5月6日)1♀1♂ (5月9日)2♀1♂
(7月6日)1♀

ネコグモ科 *Corinnidae*

- ヤバネウラシマグモ *Phrurolithus pennatus* Yaginuma 1967
(6月3日)1y
(7月6日)1♀ (7月16日)1y
(8月3日)2♀ (8月4日)1y
(9月6日)2y
(10月17日)1y (10月18日)4y
ネコグモ *Trachelas japonicus* Bösenberg & Strand 1906
(4月13日)19y
(5月2日)1♀1♂1y (5月5日)12♀2♂ (5月6日)1♀ (5月9日)1♀
(6月5日)1y (6月6日)8♀ (6月15日)1♀
(7月8日)1♀
(8月7日)3y (8月11日)9y (8月13日)14y (8月19日)8y

(9月3日)1y (9月4日)11y (9月7日)3y (9月8日)3y
(10月10日)17y (10月15日)3y (10月16日)3y (10月18日)2y

アシナガグモ科 *Tetragnathidae*

チュウガタシロカネグモ *Leucauge blanda* (L. Koch 1878)

(4月7日)1y (4月13日)30y (4月14日)1♂1y
(5月5日)1♂15y (5月6日)5y (5月9日)1y
(6月3日)3y (6月5日)1♀2♂2y (6月6日)4♀1♂1y (6月15日)1♀
(7月4日)5♀2♂ (7月11日)1y
(8月7日)23y (8月11日)1♀90y (8月13日)30y (8月19日)73y
(9月3日)5y (9月4日)141y (9月6日)1y (9月7日)62y (9月8日)83y (9
月9日)4y (9月15日)5y
(10月10日)57y (10月15日)10y (10月16日)37y (10月17日)141y (10
月18日)98y

コシロカネグモ *Leucauge subblanda* Bösenberg & Strand 1906

(5月22日)2y

(6月12日)1y

キララシロカネグモ *Leucauge subgemmea* Bösenberg & Strand 1906

(6月6日)1y

(7月4日)1♀

ジョウグモ *Nephila clavata* L. Koch 1878

(7月6日)4y (7月8日)1y (7月11日)3y

(8月11日)1♂7y (8月19日)1y

(9月4日)3♂4y (9月7日)1♂1y (9月8日)2♀3♂1y (9月9日)1y

(10月16日)1♀1♂ (10月17日)1♀ (10月18日)1♀

アシナガグモ *Tetragnatha praedonia* L. Koch 1878

(8月13日)1♂

ウロコアシナガグモ *Tetragnatha squamata* Karsch 1879

(4月13日)50y

(5月9日)1y (5月22日)8y

(6月6日)2y (6月15日)1♀

(7月4日)1♂5y (7月6日)3♂2y (7月8日)1♂ (7月11日)1♀5y

(8月11日)1♂54y (8月13日)1♂88y (8月19日)1y

(9月4日)34y (9月8日)2y (9月9日)77y

(10月16日)19y (10月17日)4y (10月18日)9y

サラグモ科 *Linyphiidae*

コサラグモ *Aprifrontalia mascula* (Karsch 1879)

(6月6日)24♀

ザラアカムネグモ *Asperthorax communis* Oi 1960

(4月7日)32y (4月9日)4y (4月11日)1y (4月14日)6y

(5月2日)33y (5月4日)2y

(6月3日)53y (6月4日)1y (6月5日)4y

(7月3日)2y

(8月3日)1y

(10月17日)1y (10月18日)1y20y

ヤマトテナガグモ *Bathylinyphia major* (Kulczyński 1885)

(4月7日)1y (4月14日)2y

デーニッツサラグモ *Doenitzius peniculus* Oi 1960

(5月2日)9♀ (5月4日)1♀1y

(6月3日)2♀ (6月4日)4♀

(7月3日)1♀

アシナガサラグモ *Nerienne longipedella* (Bösenberg & Strand 1906)

(5月2日)10y (5月6日)3y (5月9日)2y (5月22日)1y

(6月4日)1y (6月5日)4y (6月6日)13y

(7月3日)1y (7月4日)1y (7月6日)7y

(8月7日)1y (8月11日)1♂ (8月13日)1y

スゾグロサラグモ *Ostearius melanopygius* (O. P.-Cambridge 1879)

(6月3日)46y (6月4日)2y

(8月3日)146y (8月4日)195y (8月5日)170y

(9月3日)201y (9月6日)100y

(10月10日)82y (10月17日)16y (10月18日)8y

アリマネグモ *Solenysa melloteei* Simon 1894

(6月3日)4y

(8月3日)8y (8月5日)3y

(9月3日)1y

ユノハマサラグモ *Turinyphia yunohamensis* (Bösenberg & Strand 1906)

(4月13日)1♀

ウエムラグモ科 *Liocranidae*

イタチグモ *Itatsina praticola* (Bösenberg & Strand 1906)

(4月7日)2♀1♂51y

(5月2日)3♀171y
(6月3日)2♀135y (6月4日)3♀52y (6月5日)1♀118y
(7月3日)5♀48y (7月13日)3♀2♂22y (7月16日)2♀40y
(8月3日)10y (8月4日)2♀47y (8月5日)2♀76y (8月11日)6♀13y
(9月3日)8♀103y (9月6日)4♀111y
(10月10日)24y (10月18日)22y (10月17日)2♀16y

コモリグモ科Lycosidae

チビコモリグモ *Pirata procurvus* (Bösenberg & Strand 1906)

(7月3日)6♀
(8月5日)24♀1♂30y

センシヨウグモ科Mimetidae

センシヨウグモ *Ero japonica* Bösenberg & Strand 1906

(4月9日)1y (4月13日)5y (4月14日)1y
(5月2日)2y
(6月3日)1y (6月5日)1y (6月6日)3♂6y
(7月3日)1♂ (7月4日)2♂
(8月4日)1y (8月5日)1y (8月7日)1♀ (8月19日)1y (8月11日)1y (8月13日)1y
(9月4日)2♀6y (9月6日)1y (9月7日)3y (9月8日)2♀4y
(10月10日)3y

ハラビロセンシヨウグモ *Mimetus japonicus* Uyemura 1938

(4月13日)2y
(5月5日)1y (5月6日)1♂1y
(7月4日)1y
(8月11日)7y (8月13日)2y (8月19日)8y
(9月3日)1y (9月4日)12y (9月7日)3y (9月8日)3y
(10月10日)11y (10月15日)2y (10月16日)1♀1y (10月17日)2y

オオセンシヨウグモ *Mimetus testaceus* Yaginuma 1960

(6月5日)1♂ (6月6日)1♀

エビグモ科Philodromidae

キンイロエビグモ *Philodromus auricomus* L. Koch 1878

(4月13日)8y
(5月9日)10y

(7月4日)1y

(8月11日)1y

(9月9日)1y

シロエビグモ *Philodromus cespitum* (Walckenaer 1802)

(5月6日)9y (5月22日)1y

アサヒエビグモ *Philodromus subaureolus* Bösenberg & Strand 1906

(4月13日)37y

(5月5日)3y (5月6日)4y (5月9日)4y (5月22日)2♂5y

(6月5日)2♀1♂2y (6月6日)3♀2♂10y (6月12日)1♀ (6月15日)1♂1y

(7月6日)3♀ (7月11日)1y

(8月11日)3♀

(9月8日)1y (9月9日)5y

(10月10日)1y (10月16日)7y (10月17日)12y (10月18日)16y

シヤコグモ *Tibellus tenellus* (L. Koch 1876)

(4月11日)1y (4月13日)2y

(5月9日)3y

(6月3日)2y (6月6日)3y

(7月4日)2♀2y (7月6日)5y

(8月11日)2y (8月19日)1y

(9月4日)9y (9月8日)1y

(10月18日)1y

タマゴグモ科 *Oonopidae*

ダニグモ *Gamasomorpha cataphracta* Karsch 1881

(5月2日)1♀2y (5月4日)9♀1y

(6月3日)10♀ (6月4日)8♀2♂ (6月5日)1♀

(7月6日)3y (7月16日)3♀2♂

(8月3日)8♀ (8月4日)19y (8月5日)1♀ (8月11日)5♀1y

(9月3日)3♀2♂ (9月6日)19♀1♂1y

(10月17日)1♀3y (10月18日)1♀4y

ナルトミダニグモ *Ischnothyreus narutomii* (Nakatsuji 1942)

(5月2日)1y (5月4日)1♂1y

(6月3日)1y (6月4日)1y

シヤラクダニグモ *Opopaea syarakui* (Komatsu 1967)

(5月2日)1y

(8月11日)1y

(9月3日)2♂

ユウレイグモ科Pholcidae

ユウレイグモ *Pholcus crypticolens* Bösenberg & Strand 1906

(4月7日)1y (4月13日)10y

(5月2日)3y (5月5日)8y (5月6日)5y (5月9日)1♀1♂5y2y

(6月3日)1y (6月5日)3♀1y (6月6日)9♀2♂2y

(7月4日)5♀1♂3y (7月6日)7♀1♂4y (7月11日)1♀

(8月11日)1♂38y (8月13日)1y (8月19日)8y

(9月3日)1y (9月4日)43y (9月7日)1y (9月8日)8y

(10月10日)20y (10月16日)1y (10月17日)1♀14y (10月18日)14y

キシダグモ科Pisauridae

スジアカハシリグモ *Dolomedes saganus* Bösenberg & Strand 1906

(4月13日)10y (4月14日)1y

(5月5日)5y

(6月6日)2y

(7月4日)5y

(8月5日)1y (8月19日)22y

(9月3日)3y (9月4日)16y (9月7日)5y

(10月10日)9y

アズマキシダグモ *Pisaura lama* Bösenberg & Strand 1906

(7月4日)1y

ハエトリグモ科Salticidae

ネコハエトリ *Carrhotus xanthogramma* (Latreille 1819)

(6月6日)8♀

ウデブトハエトリ *Harmochirus insulanus* (Kishida 1914)

(5月2日)2y

(7月4日)2♀ (7月11日)1♀ (7月16日)1♀

(8月4日)3y (8月5日)2y (8月11日)1y

(9月3日)3y (9月6日)7y (9月7日)2♀ (9月8日)1♀

(10月10日)1♀3y (10月17日)1y (10月18日)1y

ジャバラハエトリ *Helicius yaginumai* Bohdanowicz & Prószyński 1987

(4月13日)1♂9y

(5月5日)1♀1♂2y

(6月6日)6♀2♂1y (6月12日)1♂1y
(7月4日)2♀ (7月11日)1y
(8月11日)1♀3y (8月19日)1♀2♂7y
(9月4日)21y (9月7日)1y (9月8日)2y
(10月10日)1♀2♂17y (10月16日)1y (10月17日)2y (10月18日)1y

アリグモ *Myrmarachne japonica* (Karsch 1879)

(4月13日)3y
(5月22日)1y
(6月5日)1y
(7月6日)1y
(8月7日)1y (8月11日)5y (8月13日)3y
(9月4日)1y (9月9日)3y
(10月17日)4y (10月18日)1y

アシブトハエトリ *Pancorius crassipes* (Karsch 1881)

(4月13日)2y
(5月4日)1y (5月5日)2y (5月9日)1♀2y
(6月5日)1♀4y (6月6日)3y (6月12日)1♀
(7月4日)18y (7月6日)11y (7月11日)3y
(8月7日)1y (8月11日)2y (8月13日)1♀5y (8月19日)1y
(9月3日)1y (9月4日)1♂ (9月8日)2y
(10月18日)2y

デーニツハエトリ *Plexippoides doenitzi* (Karsch 1879)

(4月13日)2♀2y
(8月19日)10y (8月11日)1♀28y
(9月4日)4♀1♂6y (9月7日)8y (9月8日)1♀1♂3y (9月9日)3♀ (9月
15日)1♂
(10月10日)3y (10月16日)1♀2y (10月17日)8♀7y (10月18日)1♀1♂4y

ヒメカラスハエトリ *Rehene* sp.

(4月13日)6y
(5月5日)2y
(6月5日)1y (6月6日)2y
(7月4日)5y
(8月11日)1y (8月19日)2♀7y
(9月4日)1♀6y (9月7日)1y (9月8日)1y
(10月10日)1♀5y (10月18日)1y

アシダカグモ科Sparassidae

アシダカグモ *Heteropoda venatoria* (Linnaeus 1758)

(7月4日)2y (7月6日)1y

コアシダカグモ *Sinopoda forcipata* (Karsch 1881)

(4月9日)1y (4月11日)1y (4月13日)1y (4月14日)2y

(5月2日)24y (5月4日)1y (5月5日)1y

(6月3日)6y (6月4日)3y (6月5日)10y

(7月3日)2y (7月11日)2y (7月13日)1y (7月16日)2y

(8月4日)9y (8月5日)7y (8月11日)6y

(9月4日)1y (9月3日)11y (9月6日)8y

(10月10日)3y (10月17日)8y (10月18日)1y

カマスグモ *Theleticopis severa* (L. Koch 1875)

(4月13日)8y

ヒメグモ科Theridiidae

ツリガネヒメグモ *Achaeearanea angulithorax* (Bösenberg & Strand 1906)

(6月5日)3♂ (6月6日)2♂

(7月4日)1♀

(8月5日)1♂2y (8月11日)1y (8月19日)2y

(9月3日)3y (9月6日)1y (9月7日)6y

(10月17日)2y

カグヤヒメグモ *Achaeearanea culicivola* (Bösenberg & Strand 1906)

(6月4日)1♀1y (6月5日)1♀

(7月4日)2y (7月6日)3♂ (7月8日)1♂ (7月11日)1y

(8月7日)2♀ (8月11日)1♀2y

(9月8日)2y

ニホンヒメグモ *Achaeearanea japonica* (Bösenberg & Strand 1906)

(7月4日)5y (7月8日)1y (7月11日)1♀2y

(8月19日)1y (8月11日)1♀1y

(9月4日)1y (9月8日)1y (9月9日)1y

(10月10日)2y (10月16日)1♀20y (10月17日)8y (10月18日)3y

コンピラヒメグモ *Achaeearanea kompirensis* (Bösenberg & Strand 1906)

(5月5日)25y (5月9日)2y (5月22日)1y

(6月5日)1y (6月6日)38y

(7月4日)1♀4♂5y (7月6日)2♀1♂

オオツリガネヒメグモ *Achaeearanea tabulata* Levi 1980

(8月19日)1y

オオヒメグモ *Achaearanea tepidariorum* (C. L. Koch 1841)

(5月22日)1y

(6月3日)3♀

(7月6日)1♂12y (7月11日)1y

(8月4日)4y (8月7日)1y (8月11日)10♂19y (8月13日)1♀1y

(9月3日)17y (9月4日)8y (9月8日)4y

(10月10日)1y (10月15日)1y (10月16日)2y (10月17日)10y (10月18日)1y

シロカネイソウロウグモ *Argyrodes bonadea* (Karsch 1881)

(10月16日)3y

チリイソウロウグモ *Argyrodes kumadai* Chida & Tanikawa 1999

(4月13日)1y

(5月9日)1y (5月22日)2y

(6月5日)1y (6月6日)14y

(7月4日)5y (7月6日)1♀2y (7月8日)4y

(8月7日)1♀1y (8月11日)1y

(9月4日)1y

オナガグモ *Ariamnes cylindrogaster* (Simon 1888)

(6月6日)1♀

(7月11日)2y

(8月7日)1y (8月11日)3y (8月19日)8y

(9月4日)5♀ (9月7日)1y (9月8日)1y

(10月10日)2y (10月16日)2y

オダカグモ *Chryso argyrodiformis* (Yaginuma 1952)

(7月6日)1♂2y (7月11日)1♀

(8月11日)1♀5y (8月19日)1y

(9月4日)4♀2♂2y (9月8日)1y

(10月10日)4y (10月17日)1♀1y (10月18日)1y

コガネヒメグモ *Chryso scintillans* (Thorell 1895)

(5月9日)1y (5月22日)4y

(6月5日)2y

ヒシガタヒメグモ *Chryso vesiculosa* (Simon 1894)

(7月4日)2♀

ヤホシサヤヒメグモ *Coleosoma octomaculatum* (Bösenberg & Strand 1906)

(4月7日)2y (4月9日)1y (4月13日)36y (4月14日)2y

(5月5日)4y (5月9日)1y

(10月10日)2y (10月16日)2y (10月17日)3y (10月18日)27y

カレハヒメグモ *Enoplognatha abrupta* (Karsch 1879)

(4月13日)1♀1♂2y

(5月2日)1y

(6月6日)1y

(8月19日)2y

(9月4日)1y

(10月10日)1y

ヒシガタグモ *Episinus affinis* Bösenberg & Strand 1906

(6月6日)1♂

(9月8日)1y (9月15日)1y

(10月17日)1y

ムラクモヒシガタグモ *Episinus nubilus* Yaginuma 1960

(5月2日)7y

(6月3日)2♀2♂12y (6月4日)1♂ (6月5日)1♀1♂ (6月6日)1♀

(7月3日)8y (7月11日)1y (7月13日)2♀

(8月3日)1y (8月4日)1y (8月5日)2y (8月11日)1♀1♂11y (8月19日)1♂3y

(9月3日)2♀11y (9月4日)3y (9月6日)1♀1♂5y (9月8日)1♀8y

(10月10日)12y (10月15日)9y (10月16日)1y (10月17日)2y (10月18日)2y

ムナボシヒメグモ *Keijia sterninotata* (Bösenberg & Strand 1906)

(4月13日)1♀5♂20y (4月14日)1y

(5月4日)1♂1y (5月5日)1♂8y (5月6日)1♀1y (5月9日)2♀3♂2y (5月18日)1♀1y (5月22日)2♀1y

(6月5日)1♀3♂ (6月6日)3♀1♂2y (6月12日)1♀ (6月15日)1♂1y

(7月4日)1y (7月6日)5♀2♂10y (7月8日)1♂4y (7月11日)2♂20y

(8月4日)1y (8月7日)2♀3♂11y (8月11日)4♀3♂37y (8月13日)3♀1♂35y (8月19日)14y

(9月4日)2♀48y (9月7日)10♀42y (9月8日)1♀18y (9月9日)1♀36y (9月15日)6y

(10月10日)4y (10月17日)2y (10月15日)10y (10月16日)1♀11y (10月18日)5y

ハラナガヒシガタグモ *Moneta caudifera* Dönitz & Strand 1906)

(5月5日)1♂ (5月6日)1♂ (5月18日)1♀

(6月12日)1♀

(7月4日)1♀

(8月7日)1♀

フタオイソウロウグモ *Neospintharus fur* (Bösenberg & Strand 1906)

(4月13日)2♂13y (4月14日)1y

(5月5日)1♂2y (5月6日)2♂ (5月9日)4y (5月22日)1y

(6月5日)2y (6月6日)2y (6月15日)2y

(7月6日)6y

(8月7日)1♀1y (8月11日)1♂5y (8月13日)1y (8月19日)1y

(9月4日)22y (9月8日)1♂5y (9月7日)1y (9月9日)1y

(10月10日)40y (10月16日)1♂5y (10月17日)2y

ハラダカツクネグモ *Phoroncidia altiventris* Yoshida 1985

(5月22日)1y

(7月8日)2y (7月11日)2y

(8月11日)3y (8月13日)2♀

(9月4日)1y (9月7日)2♀2y (9月8日)1y

(10月16日)1♀ (10月18日)1y

ツクネグモ *Phoroncidia pilula* (Karsch 1879)

(8月11日)2y

(10月17日)1y (10月18日)1y

キベリミジングモ *Phycosoma flavomarginatum* (Bösenberg & Strand 1906)

(8月7日)3y (8月13日)3y

カニミジングモ *Phycosoma mustelinum* (Simon 1888)

(4月7日)2♀ (4月11日)1y (4月13日)1♀4y

(5月4日)1♀2y (5月5日)1♂2y (5月6日)1♀ (5月9日)2♀

(6月3日)3♂7y (6月4日)4♀ (6月5日)7♀ (6月6日)1♀ (6月12日)1♀

(7月4日)1♀1♂14y (7月6日)1♀1♂9y (7月11日)3y (7月13日)2♂2y (7月16日)2♂1y

(8月3日)1y (8月4日)1♂10y (8月11日)9♀19♂27y (8月13日)1♀ (8月7日)1♀1y (8月19日)1♀4♂12y

(9月3日)5y (9月4日)3♂42y (9月6日)15y (9月7日)2y (9月8日)7♀3♂35y (9月9日)2y

(10月10日)2♀1♂12y (10月15日)1y (10月16日)1y (10月17日)1♀9♂16y

(10月18日)2♀3♂14

ヤリグモ *Rhomphaea sagana* (Dönitz & Strand 1906)

(4月13日)12y (4月14日)1y

(5月2日)1y (5月5日)1♀1♂13y (5月9日)2y
(6月5日)1y (6月6日)2♀2y
(7月4日)4y
(8月5日)3y (8月11日)7y (8月13日)2y (8月19日)2♂24y
(9月4日)20y (9月7日)2y (9月8日)5y
(10月10日)6y (10月17日)8y (10月18日)4y

バラギヒメグモ *Takayus chikunii* (Yaginuma 1960)

(4月13日)8y

ムネグロヒメグモ *Theridion pinastri* L. Koch 1872

(5月6日)1y

(8月7日)1y

カニグモ科 *Thomisidae*

コハナグモ *Diaea subdola* O. P.-Cambridge 1885

(4月13日)13y

(5月9日)1y (5月22日)1y

(6月5日)1♂1y (6月6日)1♀1♂1y

(7月4日)1y (7月6日)1y (7月11日)1y

(8月11日)3y (8月13日)2y

(9月4日)1y

(10月16日)1y (10月17日)1y (10月18日)1y

ガザミグモ *Pistius undulatus* Karsch 1879

(9月8日)1y

アズチグモ *Thomisus labefactus* Karsch 1881

(4月13日)3y

(5月5日)1y (5月6日)1y (5月9日)13y (5月22日)2y

(6月5日)2y (6月6日)5y

(7月11日)1♂

(9月4日)1♀ (9月9日)1♀4y

(10月10日)1y (10月16日)8y (10月17日)2y (10月18日)16y

トラフカニグモ *Tmarus piger* (Walckenaer 1802)

(5月9日)2♀

(7月6日)3y

(8月11日)8y (8月13日)5y (8月7日)3y

(9月7日)1y

(10月10日)2y (10月16日)1y (10月17日)1y (10月18日)5♀5y

セマルトラフカニグモ *Tmarus rimosus* Paik 1973

(6月15日)1♀

(7月4日)1♀

ウズグモ科 *Uloboridae*

オウギグモ *Hyptiotes affinis* Bösenberg & Strand 1906

(8月11日)9y (8月13日)1y (8月19日)2♂5y

(9月4日)1♀2♂6y (9月7日)1y

(10月10日)1♂1y (10月18日)2y

マネキグモ *Miagrammopes orientalis* Bösenberg & Strand 1906

(4月13日)3y (4月14日)3y

(5月5日)6y (5月6日)1y (5月9日)1y (5月22日)1♀1♂

(6月5日)1♀2♂4y

(7月4日)1♀11y (7月6日)14y (7月8日)21y (7月11日)3♀33y

(8月7日)36y (8月11日)59y (8月13日)13y (8月19日)10y

(9月3日)1y (9月4日)28y (9月7日)34y (9月8日)1y (9月15日)10y

(10月10日)21y (10月15日)10y (10月16日)5y (10月17日)4y (10月18日)8y

ウズグモ *Octonoba varians* (Bösenberg & Strand 1906)

(4月7日)7y (4月13日)9y (4月14日)4y

(5月2日)16y (5月5日)36y (5月9日)3y (5月18日)1y (5月22日)2y

(6月3日)1♀2y (6月5日)1y (6月6日)1♂6y (6月15日)1y

(7月4日)4y (7月6日)2y

(8月5日)5y (8月11日)1♀7y (8月13日)1y (8月19日)28y

(9月3日)8y (9月4日)1♂31y (9月7日)1y (9月8日)1y

(10月10日)16y (10月17日)3y (10月18日)10y

カトウツケオグモをゲット

2006年9月7日に、龍谷大学瀬田キャンパス（滋賀県大津市大江町）で行なわれた京大大学生態学研究センターの野外実習で、京大農学部の小池直樹君がカトウツケオグモの成メスをゲットした。いろんな大学から参加した学生たちから、「おー」「かっこいい！」などの歓声が上がった（文責：吉田）。

奈良県吉野郡天川村洞川のクモ

池田 勇介

2005年4月, 9月, 10月と2006年の5月に, ぼくは家族と一緒に奈良県吉野郡天川村の洞川(どろがわ)へキャンプに行きました。世界遺産に登録された, 女人禁制が今も残る大峰山(標高1719m)のふもと, 洞川温泉は標高840mで, 夏でも30度を越えることは珍しく, 冬はマイナス20度にもなるそうです。自然がたっぷりとあり, 名水百選に選ばれている湧水が有名で, 溪流の水もとても澄みきっています。鍾乳洞と洞窟へも入って, 今まで採ったことのないクモがいろいろとれたのでリストにしました。名前のわからないクモを同定してくださいました。熊田憲一先生 西川喜朗先生 加村隆英先生ありがとうございました。

さむくて しぬ~

奈良県吉野郡天川村洞川で採ったクモのリスト:

(1)は2005年9月17~18日, (2)は2005年10月22~23日に, 奈良県吉野郡天川村洞川キャンプ場で採ったものです。Fはメス成体, Mはオス成体, fはメス幼体, mはオス幼体, Yは幼体を示します。

ヒメグモ科

オオヒメグモ (F) 1 (M) 1 (1) (F) 2 (M) 1 (2)

ヤリグモ (Y) 1 (1) (F) y 2 (2)

カレハヒメグモ (M) y 1 (1)

カニミジグモ (F) 1 (M) 1 (1)

ヒロハヒメグモ (Y) 1 (2)

ユノハマヒメグモ (F) 1 (1)

カラカラグモ科

ヤマジグモ (F) 1 (1) (F) 1 (1)

カラカラグモ (Y) 2 (2)

ヨリメグモ科

ヨリメグモ (f) 2 (1) (F) 1 (Y) 2 (2)

ピコサラグモ科

アシヨレグモ (F) 1 (m) 1 (2)

サラグモ科

コウシサラグモ (F) 1 (M) 1 (m) 1 (1) (Y) 1 (2)

アシナガグモ科

キンヨウグモ (M) 2 (1)
ヤマジドヨウグモ (m) 1 (1)
コガネグモ科
イシサワオニグモ (F) 1 (1)
オニグモ (F) 1 (1)
ズグロオニグモ (F) 1 (1)
サシアシグモ科
シノビグモ (F) 1 (1)
キシダグモ科
アオグロハシリグモ (f) 1 (m) 1 (1) (F) 1 (2)
イオウイロハシリグモ (y) 1 (1) (f) 1
タナグモ科
クサグモ (F) 1 (1)
イツツグモ科
イツツグモ (M) 1 (1) (m) 1 (2)
ネコグモ科
ネコグモ (F) 1 (2)
アシダカグモ科
コアシダカグモ (Y) 1 (1)
カニグモ科
ワカバグモ (f) 1 (1) (m) 1 (2)
アマギエビスグモ (f) 1 (1) (F) 1 (2)
ハエトリグモ科
オオハエトリ (F) 1 (2)
デーニツツハエトリ (M) 1 (2)
ウススジハエトリ (M) 3 (1) (F) 2 (M) 1 (2)

東京蜘蛛談話会佐賀合宿 (2005年7月30日~8月1日)
で採集されたクモ

吉田 真

佐賀合宿で私が採集したクモの同定をサボっていて、Kishidaia に載せることができなかったのので、くものいとに報告しておきます。

佐賀郡富士町雄淵雌淵 (7月30日)

アシナガグモ y7, ♂y1

ウズグモ ♀4, ♂1, y2
オウギグモ y1
カグヤヒメグモ y1
カニミジグモ ♀3, ♂5, y1, ♂y1
キベリミジグモ y1
ギンメッキゴミグモ ♂1, y1
コシロカネグモ ♀1
サツマノミダマシ ♂1
シマゴミグモ ♀1
ジョロウグモ y3
センショウグモ ♂1
ツノナガイソウロウグモ ♀1
ツリガネヒメグモ ♀1, オス2
デーニッツハエトリ y1
マネキグモ y1
ヤリグモ ♀1, ♂3, y1
ヨツデゴミグモ ♀1, y1
Clubiona sp. y1
Cyclosa sp. (ヤマゴミグモ?) y1
ミジグモ sp.? y1

佐賀市金立町金刀比羅神社 (7月31日)

アシナガグモ ♀1, ♂1, y1
アズチグモ ♂1
ウデブトハエトリ? ♀1
オオシロカネグモ ♀1
オナガグモ y1
カニミジグモ y2, ♂y2
クサグモ ♂1
コガタコガネグモ ♀1
コガネグモダマシ y1
コクサグモ y1, ♂y1
ゴミグモ y1
サツマノミダマシ ♂1
ジョロウグモ y5
シャコグモ y1

スネグモオチバヒメグモ ♀1
センショウグモ ♀1
ヌサオニグモ ♂y1
ネコグモ y2
ヒメカラスハエトリ? ♀1, y1
ミスジハエトリ ♀1, ♂y1, y1
ヤサガタアシナガグモ y1
ユウレイグモ y1
ワカバグモ y1
ワキグロサツマノミダマシ y1

佐賀郡富士町湯の原水田沿い

アシナガグモ y2, ♂y1
ウズグモ ♀1
オオシロカネグモ ♀2
カタハリウズグモ ♂1, y1
コガタコガネグモ y1
コガネグモ ♀1
コクサグモ y2
コシロカネグモ ♀4, ♂1
ゴミグモ y1
シロカネイソウロウグモ y1
チュウガタシロカネグモ ♂1
ツリガネヒメグモ ♀1
ナガコガネグモ y2
ムネグモサラグモ y1
ヤサガタアシナガグモ ♀2, ♂y1
ワキグロサツマノミダマシ y1
Araneus sp. y1
Leucauge sp. y5, ♂y5
カニグモ科 sp. y1

佐賀郡富士町湯の原鬼俵線 (7月31日)

アシナガグモ ♀1, y2
オオトリノフンダマシ ♀1, y1
オナガグモ y1

キララシロカネグモ ♀1
コガネグモダマシ y4
コゲチャオニグモ y1, ♂y2
コシロカネグモ メス2, y1, ♂y2
ゴミグモ ♀1, y1
ササグモ ♀1
サツマノミダマシ ♂1
トリノフンダマシ y1
ナガコガネグモ ♂1, y1
ワカバグモ y1
不明 y1

佐賀市金立町万寿寺付近 (8月1日)

オオヒメグモ ♀1
ギンメッキゴミグモ ♀1, y1
ササグモ y1
ジョロウグモ y1
チュウガタシロカネグモ ♀1
ナガコガネグモ y1
ニホンヒメグモ ♀1, y1
サラグモ科 gen. sp. ♀1
ハエトリグモ科 gen. sp. y1
不明 ♀1

大津市打出浜のクモ

梶元とも子

ここ2~3年, 飼育中のクモ (アリグモ・ササグモなど) のエサ採集のため, 5月中旬から8月末まで, 週2回, 大津市打出浜でスィーピングをしている。その際, エサになる動物以外は逃がしていたのだが, 8月に入りアシナガグモ類が目立つようになったので, おもしろそうなものだけピックアップして採集してみた。その結果, 以下のクモが見つかった。(同定者: 谷川明男氏)

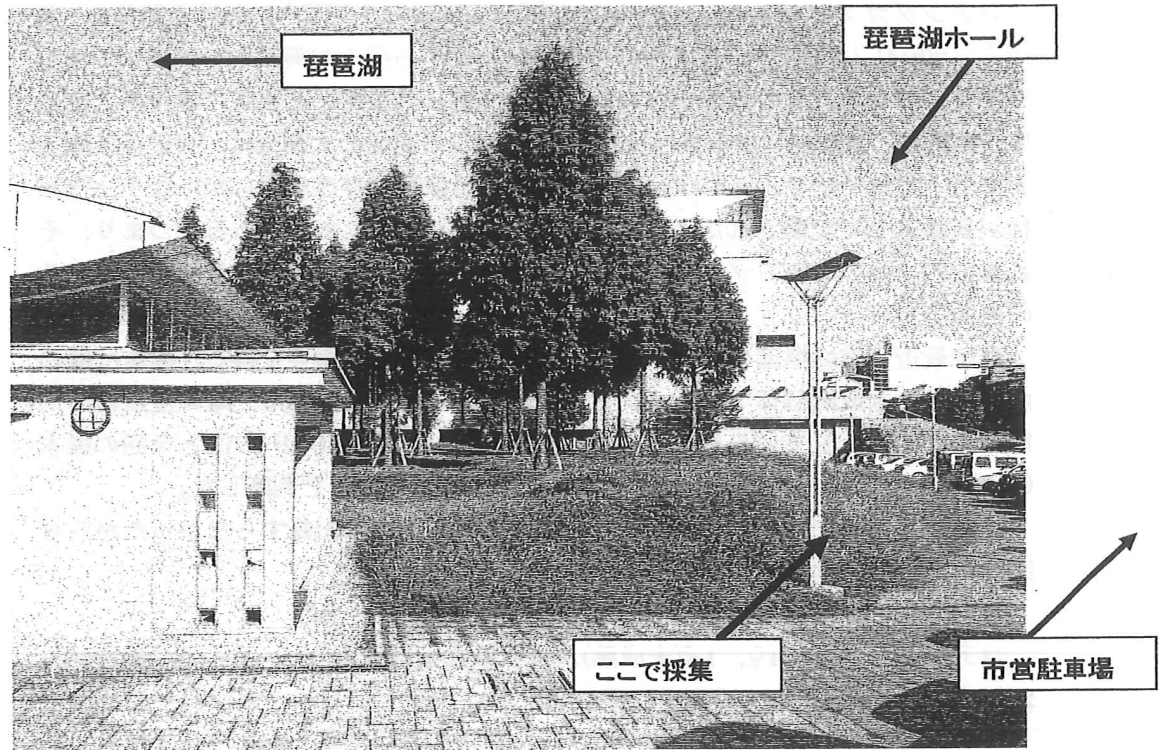
8月13日

トガリアシナガグモ幼体
シコクアシナガグモ♂

8月16日

シコクアシナガグモ♀

ヒメアシナガグモ♂



この場所は琵琶湖岸に造られた「なぎさ公園」の一角で、「びわ湖ホール」の西隣りにあたる。公園の南端は法面になっており、その隣りは市営駐車場になっている。スィーピングは主にこの法面で行っている。4月から7月まで法面はシロツメグサに覆われ（被植率90%）、ショウジョウバエなど双翅目の昆虫が多く発生する。この時期はハナグモが多く網に入る。7月末に草刈りが行われ、ここを境に植性に変化する。上記のクモを採集したときは、メヒシバ、エノコログサが伸び始めて（草丈は10cmぐらい）、そこにヨモギ、シロツメグサが混在するという状況であった。9月3日に再び訪れたところ、メヒシバなどの草丈が30~40cmになり、スィーピングすると、トガリアシナガグモが多く網に入った。人工的な市街地の公園であるが、季節ごとにクモ層が変化する。定期的にスィーピングしてみるのもおもしろいかなと思っている。

宮城県におけるコアシダカグモの記録

加村 隆英

コアシダカグモ *Sinopoda forcipata* (Karsch 1881) の国内における記録は、新海ら (2004) によると、最北の岩手県、秋田県から南の沖縄県まで、多くの都府県に及んでいる (全く記録がないのは、北海道、青森県、宮城県、香川県、徳島県、福岡県、佐賀県、熊本県)。しかし、それらの記録の大部分は、同定が不確実であるとされている。それは、近年、本種の近似種の存在が明らかになり、複数種が新種として記載された (Jäger & Ono 2000, 2002) ためである。つまり、それ以前の「コアシダカグモ」の記録の中には、別種が含まれている可能性があるのである。

私は最近、宮城県産のコアシダカグモ類の標本を見る機会を得た。標本は雌の成体と雄の未成熟個体である。コアシダカグモとその近似種は、雌の生殖器の形態が互いによく似ているものの、Jäger & Ono (2000, 2002) の図と今回の標本 (図 1, 2) を比較した結果、これはコアシダカグモであると判断した。

従来、宮城県ではコアシダカグモについて、不明瞭な記録すらなかったが、今回、新たな分布地として確認できたので報告する。

標本のデータは次のとおりである。

コアシダカグモ, 1♀, 1♂(未成熟). 宮城県宮城郡利府町しらかし台 (家屋内), 2005年1月11-12日, 採集者: 郷右近.

標本を検討する機会を与えてくださった村上協三氏に厚くお礼申し上げます。

文献

Jäger, P. & Ono, H. 2000. Sparassidae of Japan. I. New species of *Olios*, *Heteropoda*, and *Sinopoda*, with notes on some known species (Araneae: Sparassidae: Sparassinae and Heteropodinae). *Acta Arachnol.*, 49: 41-60.

Jäger, P. & Ono, H. 2002. Sparassidae from Japan. II. First *Pseudopoda* species and new *Sinopoda* species (Araneae: Sparassidae: Heteropodinae). *Acta Arachnol.*, 51: 109-124.

新海明・安藤昭久・谷川明男, 2004. 県別クモ類分布図 Ver. 2004 (CD版).

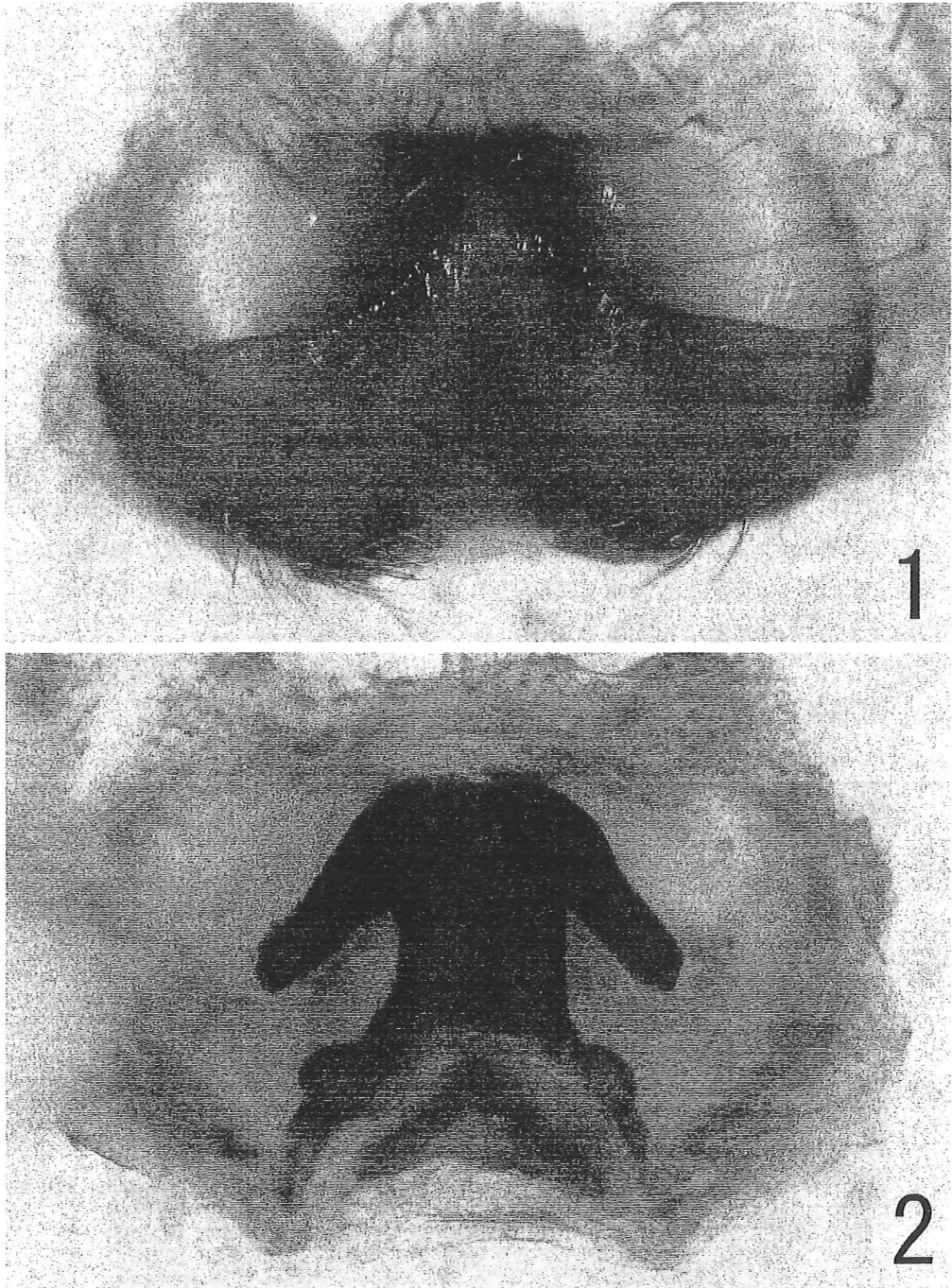


図 1-2. 宮城県産のコアシダカグモ (雌). 1. 外雌器, 2. 内部生殖器.

大阪府高槻市市街地のクモ2種

加村 隆英

私が住んでいるのは、大阪府高槻市のJ R高槻駅や阪急電鉄高槻市駅に近い住宅街のマンションである。この付近で見かけるクモといえば、マンションの廊下を徘徊するアダンソンハエトリ、室内でときおり見るチリグモやシモングモといったいわゆる市街地のクモであり、それ以外のものに出会うことはほとんどない。それでも、ときにはおもしろいものに遭遇することもある。そんなクモを2種、紹介する。

●キシノウエトタテグモ (図1)

マンションの2階の廊下の壁に静止している雄を発見した。この付近は市街地とはいえ、マンションの裏手には、古い民家もあり、そのような民家の狭い庭にはキシノウエトタテグモも生息しているのであろう。雌を求めて徘徊しているうちにマンションの2階にまで登って来たものと思われる。

採集データ. キシノウエトタテグモ, 1♂. 大阪府高槻市高槻町, 2005年9月28日, 採集者: 加村隆英.

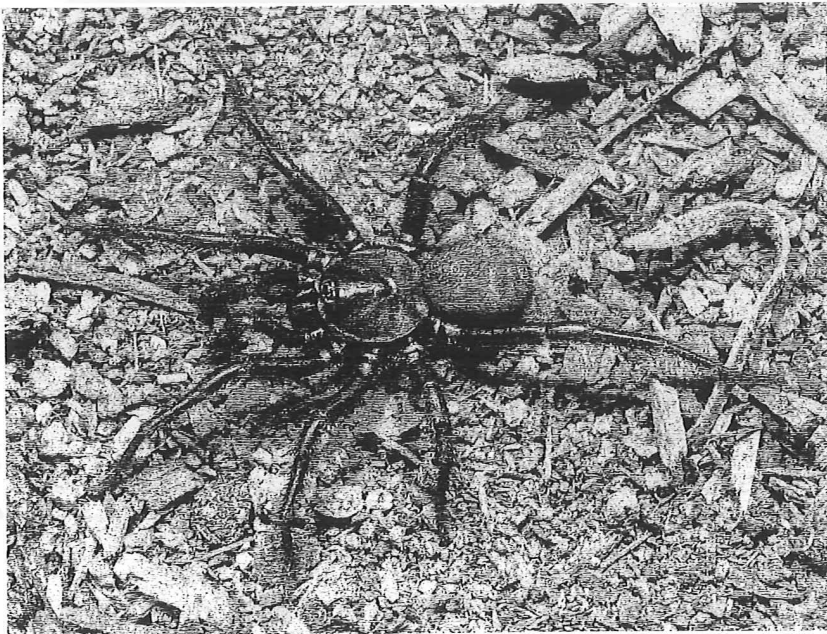


図1. キシノウエトタテグモ, ♂ (大阪府高槻市高槻町)

●ナガコガネグモ (図 2)

秋も深まった 11 月中旬に、マンションのすぐ近くの民家の塀に網を張らずに静止しているところを発見した。ナガコガネグモそのものは珍しいものではないが、この付近で本種を見たのは初めてである。成熟した雌で、体長約 15 mm のかなり小さな個体であった。

この個体は、おそらく夏の間の餌条件が悪く、成長が遅れ、秋になってようやく小さいサイズながら成熟したのであろう。

採集データ. ナガコガネグモ, 1♀. 大阪府高槻市高槻町, 2005 年 11 月 12 日, 採集者: 加村隆英.

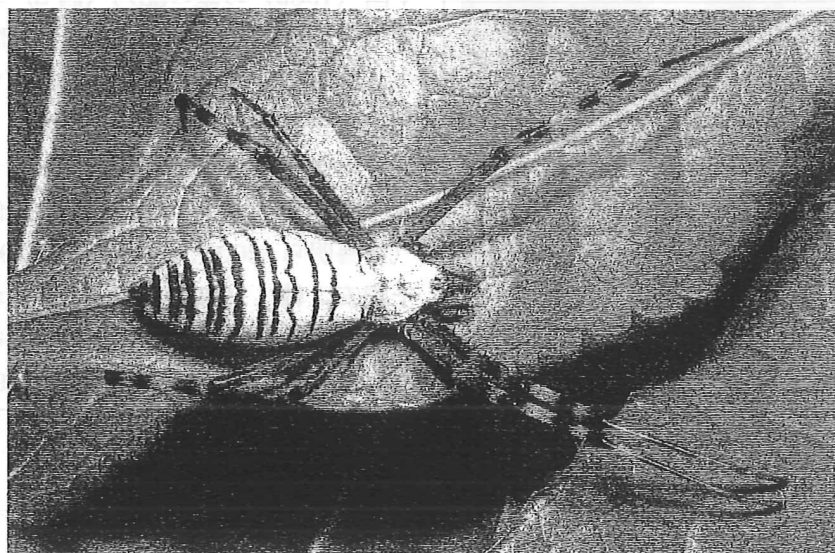


図 2. ナガコガネグモ, ♀ (大阪府高槻市高槻町)

アシダカグモの出没する家

吉田 真

京都にはアシダカグモが生息している (吉田, 2000) が、標本は残っていない。今回、我が家 (京都市左京区修学院) に出現したアシダカグモを 2006 年 9 月 14 日にようやく捕まえ、標本にすることができた。オスの立派な成体であった。

引用文献

吉田真. 2000. 京都府のクモ類 (2). くものいと 27: 19-28.

龍谷の森で採集された6眼のクモ

吉田 真

2006年7月15日に、龍谷大学瀬田キャンパスに隣接する通称「龍谷の森」で、成メスと思われる6眼のクモが採集された。採集者は京都大学農学部3回生の原口岳さん、採集方法はビーティングであった。

図1に、このクモの全形を示す。体長は1ミリほどで、全体に薄い黄色の、透

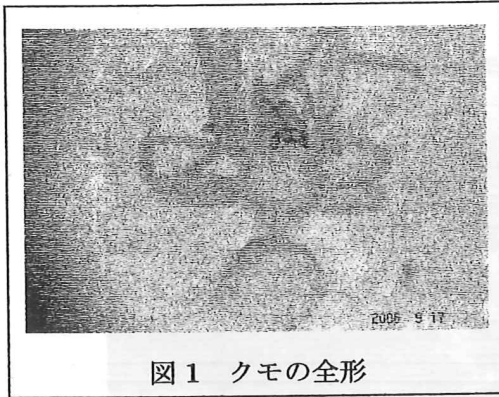


図1 クモの全形

明感のあるクモである。6眼であり、千国(1989)の眼の配列(図2)から見て、ヤギヌマグモ科のクモと判断した。新海明ら(2006)によると、日本産のヤギヌマグモ科のクモはヤマトヤギヌマグモのみである。しかし、ヤマトヤギヌマグモの体色は焦げ茶色で(新海明ら, 2006; 新海栄一ら, 1984; 千国安之輔, 1989), 今回採集されたクモとは色彩的にかなり異なっている。

これがもしヤギヌマグモ科のクモなら、別種であるかもしれない。八木沼(1986)は、ヤマトヤギヌマグモの説明の中で、「日本には他に近似の種を産する」と述べている。



図2 眼の配列図

他の科の可能性はないだろうか? エンマグモ科, タマゴグモ科, ヤマシログモ科を6眼だが、眼の配列が異なっている。エンコウグモ科は千国図鑑には載っていないが、八木沼(1986)によれば、この科に属するカンムリグモでは、「6眼は後曲する半円上に相接して並ぶ」とある。図2を見る限りでは、「半円上に相接して並ぶ」という感じではないが、どうだろうか?

新海明ら(2006)に載っているカンムリグモの写真を見ると、体色や眼の配列は今回採集されたクモとよく似ている。しかし、カンムリグモは沖縄の島々でしか採集されていないようである(谷川ら, 1999)。うーむ、このクモは何者?



図3 下面と外雌器

引用文献

新海明・安藤昭久・谷川明男. 2006. 県別クモ類分布図(CD). Ver.2006.
 新海栄一・高野伸二. 1984. フィールド図鑑 クモ. 206p. 東海大学出版会.
 谷川明男・佐々木健志 1999. 沖縄県産クモ類目録. Kishidaia 76:61-101.
 千国安之輔. 1989. 写真日本クモ類大図鑑. 310p. 偕成社.

八木沼健夫. 1986. 原色日本クモ類図鑑. 305p. 保育社.

京都・嵐山のクモ

吉田 真

京都科学読物研究会の「やさしい自然教室」で嵐山に行き、会員さんや子供たちの相手をした。嵐山でクモを採集したことはなかったので、観察会の後、ピーティングで採集してみた。

採集日：2006年9月10日

場所：京都市右京区嵯峨・嵐山公園

ウズグモ科

マネキグモ y 3

ヒメグモ科

カニミジングモ y 1

カレハヒメグモ y 3

シロカネイソウロウグモ y 1

チリイソウロウグモ ♀1、y6

ニホンヒメグモ ♀1、y1

ハラナガヒシガタグモ y 1

ヒシガタグモ y 2

フタオイソウロウグモ ♂1、♀1、y10

ボカシミジングモ ♀1

ムナボシヒメグモ y 2

ヨツコブヒメグモ ♀1

センシヨウグモ科	
センシヨウグモ	y 1
コガネグモ科	
ヤミイロオニグモの一種	y 1
ワキグロサツマノミダマシ	♀1
アシナガグモ科	
アシナガグモ	♂1、♀1、y1
ジョロウグモ	y 1
タナグモ科	
クサグモ	♀1
コクサグモ	♂y1
フクログモ科	
コマチグモの一種	y 1
ネコグモ科	
ネコグモ	y 11
ササグモ科	
ササグモ	y 2
ワシグモ科	
ヒトオビトンビグモ	♀1
エビグモ科	
アサヒエビグモ	y 10
キエビグモ	y 1
キンイロエビグモ	y 2
カニグモ科	
クマダハナグモ	y 3
セマルトラフカニグモ	y 1
ハナグモ	y 5
ハエトリグモ科	
アオオビハエトリ	y 1
アリグモの一種	♂2、y3
アシブトハエトリ	y 5
デーニツツハエトリ	y4、♂y1
ネコハエトリ	y 6
メスジロハエトリ	♂1

観察採集報告

自宅の庭（大阪府富田林市藤沢台）で、ヒゲナガツヤグモ発見

田中穂積

自宅の庭で発見したワスレナグモについてここ数回報告しているが、今年はどうだろうと探していたところ、その庭に続くコンクリートの部分で、何か小さい（2mm程度）、黒っぽい、一見、アリ（アミメアリかトビイロシワアリ？）に見える虫が動いている。アリにしては何か変。近づいて手で触れてみると急に速いスピードで動く。“クモ”と分かり、すかさずその行く手を防ぎ、何とか捕らえることができた。他にはいないかと改めてその辺を探してみる。うまくもう1個体見つけることができた。ともに雄の成体であった。すぐに種名は何かと調べてみる。眼の配置、形、出糸突起の形などからワシグモ科と断定し、加村（2002）の“くものいと”に発表された同定指南に目を通す。さすが、同定しやすくまとめている。すぐに、ツヤグモ属にたどり着くことができ、ヒゲナガツヤグモであることがわかった。報告によると、記録はあまり多くないと書かれている。大阪では今までに報告は？と思い、新海、安藤と谷川（2004）らによる県別クモ類分布図 Ver.2004 で調べてみると、野嶋（2001）による淀川での報告1篇を確認する。その他には、まだ大阪ではないようである（加村さんの私信によると、数ヶ所で、採集されているようだが報告としてはないとのこと）。

最初の採集の後、何回かその辺りを調べていたところ、また、幸運にも、やはりコンクリートの部分で同時に4個体も採集することができた。今回は、3個体の雄成体と、1個体の雌成体であった。さらに、ほぼ1週間後、コンクリートに接した下草の間で5個体を採集。4雌（成体）、1雄（成体）であった。もしかすると、この時期が交接のため、その辺を動き回っていたのかも知れない。

また、上で記したように、本種はアリと非常によく似ており、下草の間で共に行動しているように思えた。だれか、本種の生態を調査されたら面白いように思う。

以上、自宅の庭で本種を発見できたので報告する。

採集した個体のデータ：

1. 2006年5月1日：2♂
2. 2006年5月12日：1♀, 3♂
3. 2006年5月21日：4♀, 1♂なお、本種を採集した日は、すべて快晴で暖かい昼間である。

最後になったが、種名を確認するため、加村先生に同定をお願いし、本種であ

ることを、確かめている。改めてお礼申し上げる。

引用文献

加村隆英, 2002. 同定指南V I ワシグモ科 Gnaphosidae (その5). くものいと, (32): 23-25.

野嶋宏一, 2001. アイチミジグモがいる淀川河川敷. くものいと, (30):14-15.

新海明・安藤昭久・谷川明男, 2004. 県別クモ類分布図 Ver.2004. 著者自刊CD.

オスを襲うヒトエグモのメス

吉田真

奈良市の松森さんから、ヒトエグモの成オスが送られてきた。今年（2006年）の7月30日に採集されたものだという。自宅外壁、風呂場の釜の開口部付近で

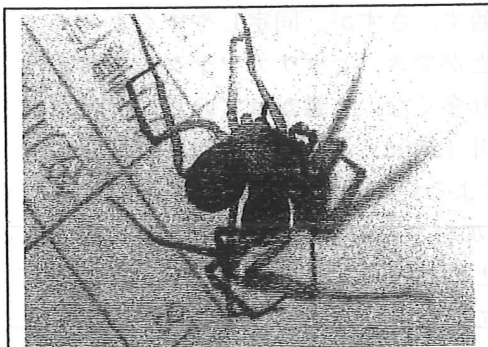


図1 ヒトエグモの交接？

採集したという。ヒトエグモが垂直の壁で採集されたのは、おそらく初めてのことだろう。数日後、京都市在住の玉井さんが偶然にも成メスと思われるヒトエグモを届けてくれた。自宅の襖（ふすま）についていたという。これも垂直の「壁」である。してみるとこのクモは、足掛かりがあるざらざらした面なら、たとえ垂直でも登ることができるらしい。捕らえようとする、このメスはなかなか機敏に逃げ、玉井さんは採集時に脚を一本もいってしまったという。

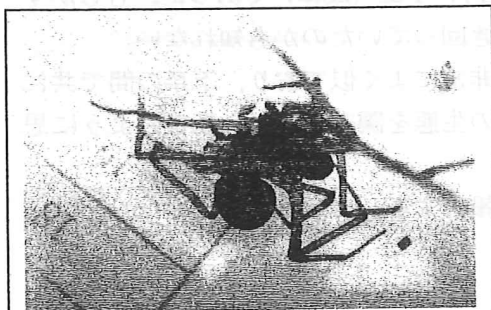


図2 オスの脚に噛み付くメス

私は興奮した。念願のヒトエグモの交接が見られるかもしれない。縦20cm, 横30cmほどの薄っぺらなプラスチックの容器にオスとメスを入れた。入れるときに、メスが私の腕をよじ登って素早く逃げようとしたので、逃がしたら大変と思って指で払い落とした

ところ、脚をもう一本落としてしまった。脚が6本なら、もはやクモではなく昆虫である（笑）。しかし、メスは思いのほか元気であった。

私の期待に反して、ヒトエグモはほとんど何もしなかった。いろんな餌を入れて

てやってもまったく反応せず、私が見ていない時間に食べた形跡もない。ティッシュを2枚重ねた中でオスとメスが重なっているのを一度だけ見たが、これも交接ではなかった。まったく困った奴だ。交接はおろか、捕食の現場すら見せてくれないのか。

9月2日の朝、ヒトエグモの飼育容器を覗いてびっくり。容器に入れて

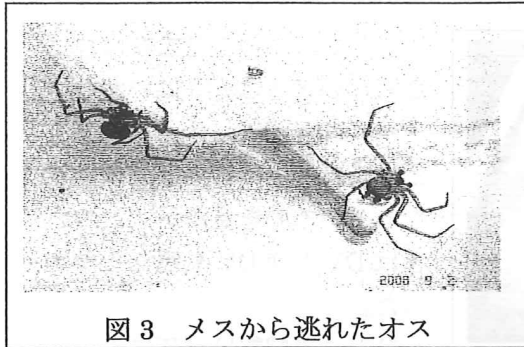


図3 メスから逃れたオス

ておいたティッシュの端で、メスがオスに覆いかぶさるように、何かやっている。交接のようだ。もしそうなら、これは世界で初めての観察である。しかし、よく見ると何か変だ。オスの位置が高すぎる。オスの触肢をメスに挿入するには、オスがメスの体の下に潜り込むような姿勢が必要なはずだが、触肢は2本とも高い

位置に見えていて、触肢をメスに挿入するような動きはない(図1)。

しばらく観察した結果、だんだんと事情が分かってきた。両者は向き合っているのではなく、メスがオスの背中に覆いかぶさっているのである。しかも、メスはオスの左第1脚の根元に噛み付いている! 交接ではなく、オスがメスに襲われ

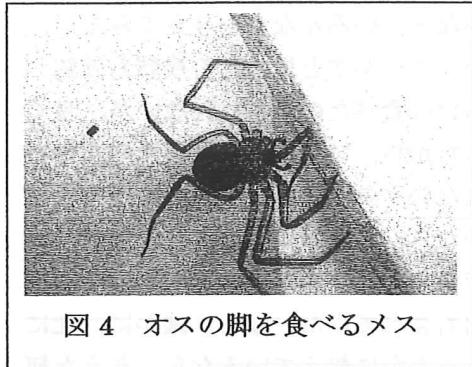


図4 オスの脚を食べるメス

ていたのである(図2)。DV(ドメスティック・バイオレンス)とは妻に対する夫の暴力を指すらしいが、これはさしずめ「逆DV」と呼ぶべきか?

15分ほど経って、オスはようやくメスから逃れた。かわいそうに、オスの左の第1脚と第3脚がもぎ取られていた。2,3日観察していなかったのも、第3脚の方はこの時ではなく、少し前にもぎ取られたのかもしれない(図3)。メスはうまそうに、オスの脚を食べている(図4)。オスは湿ったティッシュに取り付いている。たぶん水を飲んでいたのであろう。もがれた脚から体液が失われて、脱水症状を起こしているのかもしれない(図5)。

そして三日後の9月5日の朝。オスはメスに食われて死んでいた。襲った瞬間を見ていないので、メスに襲われたから死んだのか、他の原因で死んだオスをメスが食べていたのか、はっきりしたことは分からない。

しかし、メスはなぜオスを襲ったのだろう。クモではオスの成体がまったくあるいはほとんど餌を食べない種は多いから、ヒトエグモのオスもそうかもしれない。

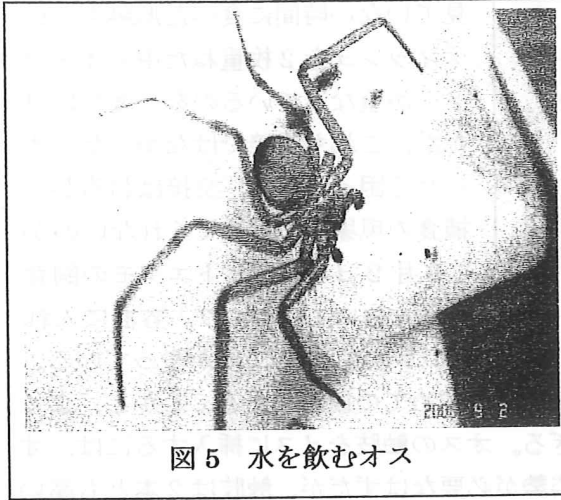


図5 水を飲むオス

しかし、卵を産まなければならないメスはそうはいかない。一ヶ月ほど前に、ティッシュを2枚重ねた中でオスとメスが重なっているのを見たが、このときはDVも逆DVも起こらなかった。

ひとつの解釈は「死にそんなほどお腹がへったから」というものである。実は私はヒトエグモの餌が何か、いまだに分からない。ユスリカ、小型のクモ、

ダンゴムシ、ムカデやケラの子供、トビムシなど、いろんな虫を与えてみたが、与えた餌を食べている現場を見たことがない。食べかすと思われる残骸も確認していない。虫の死骸は残っているから、あるいは食べたのかもしれないが、良く分からない。ムカデやケラは行方不明になったから、ひょっとしたら食べられたのかもしれないが。食べる現場を見せてくれないクモは、私が飼育した種では初めてである。もし餌をまったく食べていないなら、お腹がすくのは当たり前。ティッシュに含ませた水と砂糖水を飲むだけで飢えと渇きをしのいでいるのである。飼育開始から二ヶ月ほどになるが、その間何も食べていないなら、確かに、死にそんなほど飢えているだろう。しかし、もしそんなに飢えているなら、与えた餌を何故食わず、共食いをしたのだろうか?この点もまったく分からない。

もうひとつの解釈は、ナガマルコガネグモやセアカゴケグモに見られるような、交接後の捕食である。これらの種では、メスによる交接後のオスの捕食は、配偶行動の不可欠な要素となっていて、オスは偶然食われるのではなく、食われることを運命付けられている。オスは一般に交接ただけで子孫を残す仕事をしたことになるが、メスは交接後にたくさん食べて栄養分がたくさん含まれた卵を産まなければならない。交接直後に手近に食える餌は交接相手のオスだったというわけだ。ヒトエグモの場合はどうだろう?ヒトエグモの交接を観察できていないので、今回のことが交接の後で起こったことなのかどうかは分からない。

オスを捕食したメスは、成体でないかもしれない。触肢の先端が膨らんでいないので、オスでないことは分かるが、先日手に入れた成メスより一回り小さいので、メスの亜成体とも考えられる。外雌器を顕微鏡で見ればわかることだが、生きてる間に見るのは難しい。もし亜成体なら、交接をしないのは当たり前である。

このように、結局のところ何も分からない。ヒトエグモの謎は深まるばかりである。このような機会を与えていただいた松森さんと玉井さんに深く感謝する。

本当はみんな知りたい“クモ”のこと

飯田 博之

現在、私は英会話教室に通っているのですが、そこでの楽しみの一つはいろいろな国、職種の方々と話ができるということです。そこでは初対面の方とお話する機会も多く、「大学で昆虫生態学の研究員をしています。」と自己紹介します。すると昆虫に嫌悪感を表す人が半分くらいます。さらに「特にクモを研究しています。」というとその数がグッと増えます。しかし、嫌いではあっても興味津々な様子で「えっ!?あの(手指をワサワサ動かし)クモですか?」、「(驚いた感じで)へ〜!」あるいは、「Wow!」、「Great!」、「Interesting!」、「Oh! Spider man!!」、など反応は様々です。しかし「クモの研究者」というのは非常にインパクトが強いことは確かなようで、一度会った人は(失礼ながらこちらが忘れていても)大抵覚えていてくれます。また、クモは話題として非常に食いつきのいいテーマらしく、好きにしる嫌いにしろ、誰しもクモには何らかの興味を持っているようです。そして必ず聞かれることは「どうして(よりによって)クモを研究しているのですか?」ということです。そこで私は、「子供の頃から虫好きで、中でも捕食者が好きなのですが、農学部に属している関係上、害虫の天敵であるクモを選びました。」と説明します。おかげで、このフレーズだけはスムーズに英語で言えるようになりました。私のことはさておき、ここではこういった会話の中で「へ〜、外国人や一般の人はこんなふうに思っているんや」と感じたことについて書いてみようと思います。

【日本に毒グモは存在するの?】

しばしばこんな質問をされます。

「日本には毒を持っているクモはいますか?」

そこで私が「クモはみんな獲物を狩るための毒を持っていますが、その強さは種類によって違います。でも日本には人を殺すほど強力な毒を持ったクモはいません。」と答えると、「え〜、みんな毒を持っているんですか?」と全ての人が驚き、と同時に怯えたような表情をされます(こんなとき、なぜか快感を覚えます)。

「実際には多くのクモが人に対しては無害です。」と付け加えても、「毒」という言葉に対して一般の人々は非常に敏感で、相当なショックを受けるようです(な

らば、こういうときは“無毒”と言うべきでしょうか?)。毒グモに対するこのような反応は、約10年前に始まった“セアカゴケグモ騒動”が強く影響しているのだろうと思います。

【朝のクモ&夜のクモ】

私は子供の頃から「朝グモは縁起がいい」とか「夜のクモは見逃すな(つまり“殺してしまえ”)」などと祖父母、両親から聞いていました(実家は神戸です)。いろいろな人の話を聞く限り“朝グモ”に関しては京都をはじめ日本各地で広く言い伝えられているようです。それに引き替え“夜のクモ”については「知らない」という方が多く、こちらは“朝グモ”に比べてマイナーなようです。また“朝グモ”についても聞いたことがないという方もおられます。一方、外国人からはこのような話を聞いたことがありません。しかし、これまで聞いたことがないような面白い話を聞くこともあります。それを次にご紹介します。

【体内にクモ?】

ある時、マンチェスター出身の人にこのようなことを聞かれました。「人が夜寝ている間、天井から降りてきたクモが開いた口から体内へ入ってきて、結局、一生の間に20匹くらいのクモが体に入ってくる、と私は聞いたことがあります。本当ですか?」私は「まさか、そんなことはないでしょう!？」と答えながらも「おもしろいことを考えるなあ」とその時は思いました。そしておよそ1ヶ月後、今度はスコットランド出身の人に同じようなことを聞かれました(このときは前回と少し違って、「口から」が“鼻から”になっていました)。とにかく、古い町並みのイメージがあるイギリスにはこのような言い伝えがぴったりマッチしているように感じました。またこのような言い伝えは、クモに対する得体の知れない恐怖心を人々が持っていることとも関連しているのかもしれませんが。

【クモを見つけた時の反応】

クモの話題になると多くの外国人が“arachnophobia (クモ恐怖症)”という言葉を持ち出されます。“arachnophobia”という単語が存在していることから推測できるように、クモが嫌いな人、怖い人は日本に限らず世界中にたくさんいるようです。そういった人がクモに出会った時の反応は大きく2つに分けることができます。つまり“殺す”か“逃がす(触らない、無視する、も含む)”かです。“殺す”派の人にとってクモは単に気持ちの悪いムシで、ゴキブリと同じレベルなのでしょう(私はゴキブリが大の苦手なので引き合いに出しました)。そういうとき私は「あの大きなクモはゴキブリも食べてくれるんですよ(だから殺さないで・・・)」と言うようにしていますが、ゴキブリと同等に考えている人にとっては言っても無駄なのかもしれません。一方、“逃がす”派の人にとっては“気持ち悪いから自分

の前から消えてもらう”という消極的な理由の人もいれば、“クモは益虫だから”殺してはいけない、と考えている人もいます。どちらにしてもクモとお近づきになりたい、と思う人はかなり少ないようです。

【シドニージョウゴグモ】

言わずと知れた強力な毒を持ったクモです。そのためでしょう、今まで会ったオーストラリア出身の方々全員このクモの存在を知っていました。クモに疎い人が多い中、これは私にとっては驚きでした。しかしこのクモにの描写はかなりいいかげんで、最も誇張された例では、「このクモは手のひらほどの大きさで、非常に攻撃的である。だから怒らせると1m以上ジャンプして跳びかかってくる。そして時速15km（秒速4m以上！）で追いかけてくる！！」この話を聞いたとき、その英語教師は非常に真剣な表情で、しかも実際に体験したように話すので、さすがに異を唱えることはせず、おとなしく聞き入っていました。

【The daddy long-legs】

このクモについても誤解されているようです。そもそも外国人が“daddy long-legs”という場合、本当にクモの1種について言っている場合と、ザトウムシについて言っている場合とがあるようですが、いずれにせよ、しばしば耳にする話は「daddy long-legsはクモの中で一番強い毒を持っているけれども、牙が短いために人の皮下まで通らない」といったものです。本当によく聞きます。The daddy long-legsが何を指しているにしても間違っているのでしょうか、これも長い足をたくさん持った不気味な生物が醸し出す得体の知れない恐怖感がこのような迷信の創作を助長しているのは確かだと思います。

このように、“クモは嫌いだ！”という人が多いにもかかわらず、日本に限らず様々な国においてクモは人々の生活にいろいろな形で密接に関係していることが分かります。幸い、私たちはクモについては一般の人より多少なりともよく知っています。今後、さらにクモについて理解を深めてもらえるような活動を通して、多くの人達にクモに興味を持ってもらえたらと思います。

セアカゴケグモに咬まれて

池田 勇介

ぼくは2年前にセアカゴケグモにかまれて、痛くて不自由な毎日をすごしたので、

そのときのようにすを報告します。かまれた時は、ぼくは10歳でした。

2004年11月9日（金）八尾市立南高安小学校4年生の社会見学で柏原市役所

前の大和川の右岸を見学しました。大和川の堤防を川のほうに降りるときのコンクリートの階段のくぼみに、セアカゴケグモを見つけました。その時はアルコールビンを持っていなかったの、おしぼりの入れ物にクモ（メス 8, y7）を入れて持ちかえりました。

午後 3 時 30 分ごろ家に帰り、アルコールビンにクモをピンセットで入れようとする、クモがぼくの右手こう側の人差し指に、降りてきました。クモは人差し指をはうと、いきなり、甲側の指の根元にかみついてきました。するどい針で指を刺されるような感じでした。オニグモ（メス）やチリアンコモンタランチュラ（メス y）にかまれた時より、はるかに痛かったです。まさかあんなに小さな牙でこんなに痛むとは、思いもしませんでした。

咬まれると指全体がすぐに赤くなりました。咬まれた時と同様の痛みがまれたところから、人差し指全体に 2 分ほどで広がってきました。すぐに、釣り糸で指のつけ根を縛り付けて腕全体に毒が回らないようにしました。その直後傷口を水で洗いました。1 時間ほどたつと、指が一回り大きく、真っ赤になりました。腕も少しだけ痛かったです。熱も出ませんでした。食欲も普段どおりにありました。また、かまれたところを冷やしたりしても痛みは変わりませんでした。夜寝るときは、指が布団に触れないように布団の外に出しました。

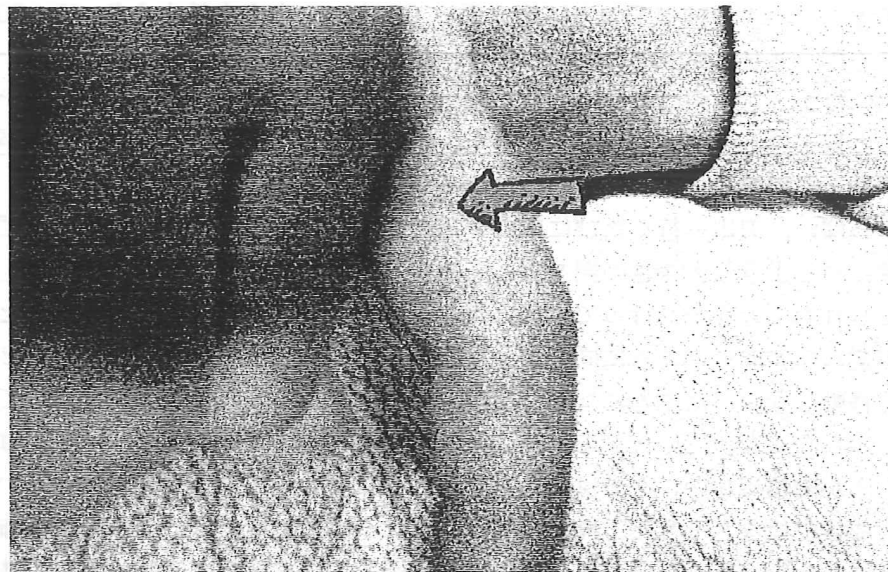
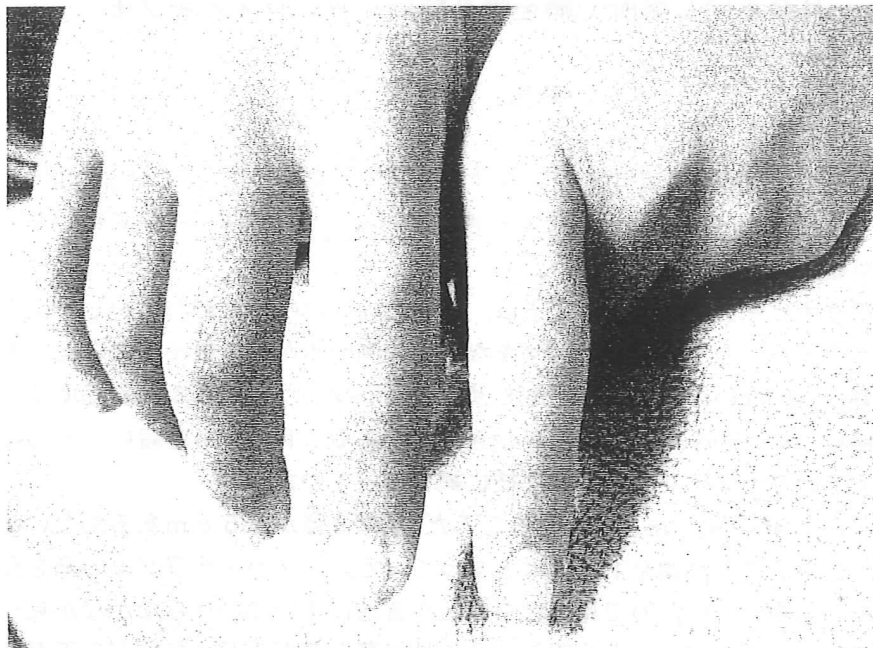
次の日も、昨日よりさらに痛くなってきました。指の色は、昨日よりも薄い赤色。人差し指は、少し物に触れるだけで、激痛がはしります。となりの中指もはれて痛くなってきました。

その後数週間すると指は、ピリピリする痛みになり、かまれてから 3 週間ほどで、痛みは引きました。9 ヶ月ほどで指が曲げられるようになりました。鉛筆で字を書くことも、おはしでご飯を食べることも普通に出来るようになりました。そして、今ではかまれたところや右手は、何の障害も残っておりません。病院へは、行きませんでした。薬も塗っておりません。

やっぱりセアカゴケグモは、強い毒をもっていて、恐ろしいクモだと思います。セアカゴケグモにかまれると大変痛くてつらい日が続きますので、かまれないように注意したほうが良いと思います。

最後になりましたがこの原稿の指導をしてくださった西川 喜朗先生ありがとうございました。

写真は 2004 年 11 月 10 日（土）に撮影しました。



2ヶ月余り同じ場所で網を張り続けたキジロオヒキグモ

船曳 和代

姫路市刀出で、2006年4月4日キジロオヒキグモを見つけた。ここは2002年、2003年、そしてそれよりずっと前にも一度見つけている。代々、子孫を残しどうやらそれが順調に育っているらしい。

今回キジロオヒキグモが居たところは、山道沿いではない。道から少し中に入ったところである。そこで杉やアベマキなど背の高い木が空を覆い、丈の低い木はあまり育っていない。ヤブツバキやヒサカキがパラパラと生えている程度で、枯れ葉が積もってふかふかした地面がむきだしである。日中でも薄暗い。そんな環境に生えているヤブツバキの貧弱な枝に網を張っていた。

地上からは40~50cmといったところだ。網は直径が15cmあるかないかでとても小さい。クモは頭を下に向けとまっている。ユノハマサラグモの網を探して、あちこち覗いていたので見つけられたが普通に歩いていたらなかなか見つかからないだろう。どう見ても少し明るい色の枯れ葉か花がらが、糸にぶら下がっているようにしか見えない。子供のキジロオヒキグモはこんなところに網を張っているのだ。4月9日にはここから数メートル離れたところでもう一頭見つけた。こちらヤブツバキの枝の下の方に網を張っていた。こちらも地上より40~50cmのところだ。4日に見つけたものはいつか網を探ろうと思ってラッカーでマークしておいたが、こちらは大体の位置を頭に入れマークしなかった。それが災いしてすぐに見つけられなくなってしまった。クモが元の位置を移動したのか私が位置を間違っただけで記憶してしまったのか分からない。

4月いっぱい、刀出へ行くたびにまだいるのか見に行っただ。クモは相変わらず同じ位置に同じような大きさの網を張って止まっていた。

5月29日もうどこかへ行ってしまったかもしれない、と思って訪ねてみるとクモは相変わらず同じところに同じような大きさの網を張って止まっていた。2ヶ月近く移動しなかったことになる。結構定着性があるらしい。9日に見つけて居所の分からなくなっていたクモも見つかった。(多分同じものだと思う)場所は同じところか確信はない。クモはどちらも最初見た時よりも少し大きくなっているがまだ成体ではなさそうだ。今度はしっかりマークしてきた。いつか条件が揃ったらきれいな網をとりたくて狙っている。果たしてかなうかどうか。大きな体をしているのでもう少し大きな網を、樹間のような広い場所に張ってくれればと願っている。

(この原稿送付の前日6月7日写真を撮りに行った。9日に再度見つけたものはいなくなっていたが、4日に見つけたものは同じ所で網を張っていた。)

新刊紹介

●ア・カペラ混声合唱のための歌う昆虫記

作詩：さいとうしんいちろう，作曲：中島はる，イラスト：小澤實樹

ISBN 4-88371-408-X

発行所：(株)サーベル社，〒130-0025，東京都墨田区千歳 2-9-13，電話
03-3846-1051，ファックス 03-3846-1391

発行日：2005年11月20日

定価：1,200円＋税

●混声合唱のための組曲 南陽讃歌 白竜湖

作詩：錦三郎，作曲：安達弘潮

ISBN 4-944077-83-1

発行者：錦啓，〒999-2232 山形県南陽市三間通 1302-4，電話・ファックス
0238-43-5412

発行日：2006年1月25日

定価：1,000円（税込）

上記2冊とも楽譜集である。

「歌う昆虫記」は、クモの文化論でおなじみの斎藤慎一郎さん（詩や童話の場合には名前がかな書きなのだそう）の詩に、同じくクモ好きの音楽家である中島はるさんが曲をつけたものである。題名のとおり、モチーフはすべて虫で、コメツキムシ、カマキリなど10種の昆虫のほかにオニグモとジグモが登場する。また、この楽譜集は、巻末に小澤實樹さん（この方もまたクモが大好き）の楽しいイラストとそれぞれの虫の解説が付いているところがユニークである。

「白竜湖」は、クモのブルーニングの研究で有名な故錦三郎氏が、その故郷である南陽市の「南陽市合唱協会」から依頼を受けて作詩したものである。故郷の自然と文化、そして、「雪迎え」が題材となっている。発行者の錦啓氏は三郎氏のご長男である。

（文責：加村隆英）

チャレンジ

『網の標本』に挑戦—失敗の巻 (誰もが通る?)—

黒田 あき

関西クモ研究会に参加した人なら、ご覧になったことのある船曳さんの網採集や網の標本、実際に行われている姿を拝見させて頂いていると、私にもできそうだと思います。船曳さんには、その方法についても何度も教えて頂いていました。そこで去年の暮れから、少しずつ挑戦して取り組んでいます。ところが実際にやってみると、失敗9、成功1で苦戦の連続です。これまでの失敗の反省と苦心して採った網の標本を紹介し報告します。

1. 網の採集・標本作製に使った道具

- ・ 水性ラッカーズスプレーMAX (アイボリー, つや消し黒)
サンデーペイント株式会社 <着色用>
- ・ ラッカーズスプレー (とうめいクリア)
コーナン商事株式会社 <仕上げ用>
- ・ スプレーのり (接着タイプ) コクヨ株式会社
- ・ 色画用紙 (多色が一冊・B4サイズとA5サイズ)
コーナン商事株式会社
- ・ B4のクリアファイル (持ち帰り用)

<道具に費やしたお金は合計3000円程>

※ スプレーの各種下線は、本文内で示すスプレーの下線と同じものです。

2. 失敗と改善

□スプレーの色について<着色用>

船曳さんからは、見た目の美しさから白のスプレーと紺色の台紙を勧めていただいていたので、最初は、やっぱり蜘蛛の糸には白いスプレーを使おうと思っていました。しかし、台紙に白い画用紙を使った場合は、糸の色が出にくいことを考え、淡いアイボリーの水性ラッカーズスプレーMAXを使用しました。けれど、台紙の色に関係なく糸が細ければとにかく見にくくなるのが難点でした。特に、仕上げ用のラッカーズスプレーを未使用だったため、より目立たない標本になっていました。

→ 現在、着色用には「つや消し黒」を使用し、仕上げ用のラッカーズスプレーを使うことによって色の見やすさは改善されました。

□保存の仕方について (ラッカーズスプレーとスプレーのり)

□でも書いた通り、最初はラッカースプレーを持っておらず、クリアファイルに入れてしまえば、スプレーのりのせいで粘着してしまい二度と取り出せませんでした。また、紙がベタつくのがイヤで網に直接スプレーのりをかけていました。また、水性ラッカースプレーMAXとスプレーのりのダブル噴射で網がよく壊れました。

→ スプレーのりは画用紙に直接噴射し、ラッカースプレーを使用して仕上げに粘着やベタツキがだいぶ改善されました。

□網と画用紙の大きさについて

円網の場合に、網の真ん中を中心に採集し、枝にかかるわく糸の部分までの配慮が足りなかったため、網の部分採りになっていました。このことに気づいたのは、加村先生に船曳さんの標本を見せて頂いたからでした。

→ 画用紙の大きさにあった、全体が採れる大きさの網を見つけてとるようにしました。

□採集道具の扱いについて

採集道具一式を、手間を省くために着色用スプレーのフタをしないまま手さげ袋に入れて持ち歩いていました。すると、勝手に中で噴射されていて、中に入っていた物が汚れてしまいました。また、木の葉に作られた小さな網を手を持って水性ラッカースプレーMAXを噴射したら、手が真っ黒になったり、洋服を汚してしまったりしました。地面がぬかるみで、採集道具が置けずに作業できない場合もありました。

→ スプレーのフタはこまめにする。スプレーを噴射する時には自分の手足や持ち物にかからないか、採集道具が置ける場所か、などを確認する。

□標本の扱い

どの標本もスプレーのりのせいで、何となくいつまでも、ベタベタとしています。コガネグモの網のカクレ帯は、クリアファイルから取り出した時に、ファイル側のビニールに付着してしまい、一部分が剥がれ落ちてしまいました。また、仕上げた網の標本をコピーすると、コピー機にも糊がよくついて困りました。

→ クリアファイルに入れる前にはよく乾かし、スプレーのりの噴射量を減らすことで少し改善されました。今後もスプレーのりの噴射量と長期保存にも耐えられるように、接着に使う素材を検討していきたいと思います。

□コピーする時の表示方法について気づいたこと

網の標本をコピーする時に、実物大、拡大縮小(コピーするごとに%を変えることがあるのでその都度確認した)、網の上下、クモの名前、採集日、採

集場所を明記しました。しかし、採集者名を入れるのを忘れていました。

→ 採集者名を入れる。他に入れられるデータがあるか検討します。

□失敗と思った網の標本について

採集に失敗と思った網の標本は、画用紙を丸めてしまったことがあったが、あとでよく見ると、網の特徴をうまく捉えているものもありました。

→ 仕上げた網の標本はとりあえず残しておいて、改めてよく見検討してから判断する。

□予備の用意

アルコールが無くなるのと同じで、スプレーの中味も無くなることがあります。画用紙、スプレーのり、着色用スプレー、仕上げ用ラッカースプレー、どれが欠けても、どんなに運命的な出会いがあっても、もう網の採集はできません。

→ 予備の用意は怠らない。

3. コツと運の世界

今、一番熱いと思っているのはサラグモ類の網です。船曳さんに採り方を尋ねましたら、「下からすくい取る」とのことでした。が、これがなかなかうまくいきません。確かに、下からしか方法がないような感じなのですが、画用紙の向きにどうやら、コツがあって、「やや斜めに構えつつ」+「下からすくい取る」と言った方がよいかもしれません。そのあと、木の枝についたわく糸を、網の全体の形が潰れないように丁寧に画用紙につけていきます。サラグモ類の網は、そのような説明しにくいコツがあることや、複雑に多くの木の枝を利用して張っている点もあり採集しにくいので、自分の2本しかない手で、全ての枝から糸をとらえるのが困難です。なおかつ、運良く2本か3本の枝を使って網を張ってくれていても、わく糸の強弱もあってプツプツとよく切れます。「こんなにたくさん網をみつけることができるのに・・・くううう」と悔しさを噛みしめて諦めることの方が多いくらいです。そんな風に、いくつかの失敗が重なってまだお皿などの特徴が綺麗に表現されません。けれど、うまく採れたものでしたら、お皿の部分の張り方と、吊り糸部分の繊細な構造を明確に見ることができます（船曳さんのホームページで見てみてください）。

様々な網の採集をしていて気づいたことは、着色用スプレーが白色なら、周囲の草木に付着しても目立ちにくいのですが、黒色だと、目立つ点です（どちらの色を使用しても周囲への影響はさけられないわけですが、着色用は水性スプレーなので雨でいつかは落ちると思います）。また、雨の日は網が水滴で目立つのですが、採集の道具の多さと置く場所や網の標本を乾かすのに困るという点で、網は採集できません。夜にも、道具の多さが問題になると思います（今は運良く昼間から暇にしているから採れるわけです・・ほんと運がいい）。ほかには、網だけを

目的にしたときに、網の主であるクモを別途採集するのが面倒で、クモが網にいるのにそのままスプレーするという強行手段をとったこともありましたが（クモさんゴメンナサイ）。けれどもクモ採りを始めた頃からのクセで、どんなに綺麗な網だとわかっていても、オスとメスのペアだと、クモの採集を優先して目にもとまらぬ早さで？無意識にクモを採集している場合もあります。そんな時は、とても複雑な気持ちになります。まだまだ余裕がありません。

失敗9, 成功1, と最初に書きましたが、クモの標本に挑戦をしてみたおかげで、苦戦をしても得るものの偉大さを感じています。なぜなら、網の標本を目の前に置いて、間近で見ていると、網に対しての今までのイメージ（餌を採るもの、クモの居るところ）がなくなり、「なぜ、設計図も持たずに様々なその場に応じた空間に適した網を張ることができるのか、なぜ、一番狙われそうな真ん中にクモが居るのか、クモの体重と網の大きさの関係は？人間だったらどんな広さの網になるのだろう……」と謎だらけになったのです。それは、他の誰でもなく網を持っているのが自分だからでした。クモ達の面白さや網の美しさも、網との距離がぐっと近くなったことで一層強く感じるようになりました。

網の標本を採っていても、結局は運次第なので、クモの採集量が減るとは感じていません。小学生の夏休みの時のように、近くの公園や少し遠くの山へ行き、クモや昆虫に加えて新たに網の標本も持ち帰るようになったことで、毎日がとても充実しています。 2006年5月25日 蜘蛛歴三年目の春

「熱中時間～忙中“趣味”あり～」テレビ出演体験記

船曳 和代

2006年4月4日夕方「突然のメールで失礼します。私NHK/BS2の『熱中時間』という番組の取材を担当しております(株)ノマドのMと申します。」で始まるメールが届いた。

それには私の“Spider Web Art”のホームページを非常に興味深くみたこと、BS2の「熱中時間」は趣味に熱中している人を紹介する番組で、毎回テーマを決めて2～3人をスタジオに招き、紹介していると書かれていた。そして「“ご趣味”としてまずはお話をお伺いしたいと思います……」と続いていた。

どうしよう。「クモの網、いえクモに熱中している変なおばさん」なんて取り上げられ方をするのは心外だ。でもNHKはそれほどひどくはないだろう。

実はこれまでテレビの話は何度かあった。実現したのはそのうちの1回で、もう数年ばかり前のことだ。たしか関西テレビの午前中の「痛快！エブリデイ」という番組だった。落語家の桂雀々さんが家へ来て話をしながら網の標本を見せた

後、近所の山道で網採りの実演をした。その時は数日前に電話がかかってきただけで、いきなりその日に数人でやってきた。私は真面目に受け答えしているのに、雀々さんはともすれば笑いの取れそうな方向へ話をもっていこうとする。始めからそんな紹介の仕方をするとう聞いておれば、それに応じた対応も頭に入れておいたのだが、いきなりのぶっつけ本番で、戸惑うと同時に気分を害した。そこでこれに懲りて以後はこの手の番組の出演依頼は断ってきた。

どうしよう、どうしよう、気持ちの決まらないまま家事をしていると、7時ごろ今度は電話がかかってきた。最初にMさんは今までテレビに出られたことはありませんか、たずねてきた。テレビに対する私の気持ちを正直に伝えると「熱中時間」はどんな番組か、ということから始め、今回は「つながる幸せ」というタイトルで一人はパッチワークの女性を紹介することになっている。糸つながりでクモの網を紹介したいので、是非話を伺いたいという。そして網の標本を作るようになったきっかけとか、今手元にどれくらい収集したものがあるか、標本の作り方など気が付いてみれば約40分もしゃべっていた。終わり頃にはMさんの誠実な話のもって行き方に好感を持ち、出てもいいかなと思うようになっていた。そして私の都合と相手の予定を考え、明後日の6日に担当ディレクターのNさんがくることになった。

6日の2時ごろ私の家へ着いたNさんは、背の高いがっちりとした体格の若い男性であった。前の関西テレビのディレクターのような少し崩れたような男性ではなかったが、ディレクターという職業がなんとなく納得できるような人であった。もらった名刺の肩書きには演出家となっていた。フリーの演出家らしい。

ずっとビデオカメラとマイクを向けられたままの取材であったが、あまり緊張せずに話げできた。3時間余りほとんど休憩なしに聞かれたことに答えたり、作品を見せたりした。Mさんの電話取材をなぞっているような感じだ。

多分出ていただくことになると思いますがまだ正式決定ではありません、と言いなながらも「5月7日に東京のスタジオで収録がありますが来られますか？」と訊かれた。一度スタジオ収録というものを体験してみたかった私は、「はい、行きます」応えた。Nさんはなんだか気のない声で「そうですか、来られますか」と手帳を見ながら言う。一瞬「来られますか」という質問をどう受け取ったらよかったのかと思った。

4月11日(火) 昼過ぎ、Nさんより17日(月)にそちらへ撮影に行きたいとの電話がはいった。雨なら水曜日になるらしい。このところ雨が多い。予報では月曜も雨であった。スタジオ収録は5月7日(日)に正式に決まった。

網を採集しているところを撮影したいようなので、当日それが自宅の庭で出来れば、とゴミグモを採集してきて放してやったりした。

15日、Nさんからスタジオ内へ生きたクモを持ち込めないか相談の電話がかか

ってきた。この時期クモはまだ小さく、網を張っていても見えないと思うのだが、
どういう取り上げ方をするのだろう。私がちょっと無理ではないかと伝えると、
スタッフの一人から、以前クモの番組の中で東大の先生が網を持ち込んでいたと
いう話を聞いたが……、なんとか網を張らせるような枠を作れないかという。東
大の先生というと多分宮下直氏のことだろう。そこで宮下氏に事情を話してなん
とか N さんに協力してもらえないかというメールを送った。宮下氏からは快く
「この件了解しました」との返信メールをいただいた。

4月17日(月)11時前、真っ赤なジャケットを着た N さんが、カメラマンを
連れてやってきた。すぐに山へ行くのかと思っていたら、N さんの指示でカメラ
マンは家の玄関付近や庭一手入れの行き届いていない庭で網を張っているクモを
撮影し始めた。“船曳さんは自宅のジャングルのような庭でクモを飼っています。”
なんてナレーションが入るのではないかと思った。

約30分後私のフィールドの一つである刀出へ。最初タクシーを頼んで二人が
乗り、後ろから私の車の走行風景を撮影する予定であったが、車で出るところだ
け撮って、私が二人を乗せて行った。

前日の朝までは雨。だが当日はよく晴れた。桜の花がまだ咲き残っており、春
らしい天気だ。マイクを胸元に付け、いつものコースを歩いていく。ゴミグモが
あちこちで網を張っているが、風がありあまりよいものはない。草むらや木の葉
の間に顔を突っ込んで網を探しながら歩いていく。横から N さんが「網を見つけ
るコツは」とか「今日は何グモの網がねらいですか」など質問してくる。それに
答えながら歩いた。

しばらくして、ゴミグモのまあまあの網を見つけた。これを一つ採ることにし
た。採集のための道具、紙、ラッカー、糊などを、指示に従って取り出し並べて
いく。そこをカメラマンが写していく。そして採集する網とクモはまずカメラマ
ンが写す。それからクモを出したり、ラッカーをかけたり、紙に糊を塗ったりす
る採集の工程をカメラに収めた。

ひととおり採集作業が撮影できたので、もう帰れると思ったがまだ駄目らしい。
その後、この時期よく網を張っているサガオニグモを探して歩き回ったが、その
日に限って見つからない。林の中をあっちへ行ったりこっちへ来たり、私の行く
方向へ二人は付いてくる。手ぶらの N さんはいいが、カメラマンは重い荷物を担
いで重労働だ。

1時間ほど歩いて、アシヨレグモのまあまあの網を見つけて採ることにした。
「この前のものよりいいでしょう」などという、この前のとか、2番目のもの
とかは言わないで欲しい、と注意を受けた。編集で入れ替えてしまうからだそう
だ。なるほどと納得した。

アシヨレグモの網を採って、もうこれで帰れると思ったが、まだ良いとは言わ

ない。仕方がないのでまた歩き回った。小さいがユノハマサラグモの網を見つけた。立体的な網で自信はなかったが挑戦。見事失敗してしまった。

またウロウロ歩き回った。誰も休憩しようとは言わない。もう昼も大分過ぎてしまってお腹もすいたし疲れた、もういいかげんで帰りたい、と思うのだが言い出せない。私は二人を従えてただもくもくと歩き回った。

谷川を渡り少し進んだところで、またユノハナサラグモの網を見つけた。かなり急な斜面で不安定な位置だ。これを採らなければ、また歩き回らなくてはならない。やけくそで採ることにした。カメラマンは崖を登り、網の後ろに回り、網や私の採集作業を撮影した。小石がパラパラ落ちてくるので、滑り落ちないか心配したが大丈夫だった。この時の作業がテレビで流れた。

Nさんもこの辺で納得したのか、帰ることになった。2時を過ぎており、お互いに昼食がまだだ。「どうされます」と訊くと、「どこかにレストランでもあればそこで」ということだったが、結局帰りにスーパーへ寄って弁当やお茶を買い、私の家で食べた。

小休憩の後、紙をカットして色付けをするところ、パネルに貼って仕上げるところなどを撮影した。代表的なものを数枚写真に撮りたいというので、アシナガサラグモやサガオニグモの網を出した。いろいろ照明の当て方が難しいらしい。ふと気が付くとテーブルを部屋の端に移動させ、閉めてあった押入れの襖を半開きにしそれに立てかけている。乱雑な中が丸見えだ。今更閉めるわけにもいかずそのまま黙っていたが、思わぬところで失態をさらしてしまった。

その後スタジオ収録についての話や、網採りのなかでのエピソードなどを再度聞かれた。たまたま休みだった娘にもインタビューした。夫にもしたかったらしいが、絶対に嫌な夫は朝からいなかった。またクモの写真が欲しいとのことで、「クモ展」の時にお世話になった緒方清人氏に連絡し、事情を話しNさんへの協力をお願いした。緒方氏は快く引き受けてくださった。

最後に「要望があれば何でも言ってください」というので、「娘と一緒に行って見学したいと言っているのですが、できますか」と尋ねると、「どうぞ」とのこと。新幹線の切符も二人分用意してくれるらしい。また当日、撮影が朝早くからはじまるようなら、前日から来て泊まって欲しいとも言われた。

すべて終わったのは6時半近くになっていた。30分足らずの昼食休憩をはさんでだけで、8時間近くかかったことになる。二人が帰った後はぐったりしてしまった。

網はできるだけたくさん並べたいので、60~70枚は送って欲しい、それも上に透明のシートをかけているものはライトが反射するのでそうでないものにして欲しい、額に入れたいのでパネルに加工していないものを中心に送って欲しい、などの要望もあった。

その方向で19日送るものを選び出し、23日にダンボール3個の荷物を発送した。またNさんが、網を張らすためのクモを送って欲しいというので、アシナガグモやゴミグモ、ズグロオニグモなどを送った。そういえばこのクモはどうなったのだろう。今頃管瓶の中で干からびてしまっているのではないだろうか。

25日、またNさんより電話あり。パネルは同じマットパネルに貼って揃えたので、NHK側で加工してもよいかという。50枚近い数で私の思い通りに貼り付けてくれるかどうか不安だったので、加工品のあるものは再度送りなおすことにした。また箱をひっくりかえして、汗だくだくになりながら作品を選び出して送った。

5月3日、26日まではやいのやいのとって電話をかけてきたNさんから、まったく連絡がない。7日の予定は？、東京行きの切符は？、どうなっているのだろう。前日から行くのなら、6日には行かなくてはならない。娘はそれに合わせて6、7日と休暇をとった。そして6日は東京観光、7日はスタジオ見学という予定を立てていた。それなのに何も言ってこない。しびれをきらし昼頃連絡して欲しいとのメールをうった。しかし夜まで連絡なし。仕方がないので7時ごろ携帯に電話した。すると、今奈良に来ているのだとのことだ。そしてここ数日はとても忙しかったとのこと。いくら忙しいといっても電話くらい出来るだろう。自分が必要な時にはやいのやいのと一方的に電話してきて、目途がたてばほったらかしというのはいかにもテレビ制作側の人間らしい傲慢な態度だ、と腹が立った。その上、7日は私が最後の収録で午後1～2時にスタジオに入ってもらったらよいとのことだ。そして夜は遅くなるので泊まって欲しいという。朝一番ということでこちらはすでに予定を組んでいるのに。仕方がないので6日の宿泊は私の方で持つからと、6、7日の2泊でホテルを頼んだ。

5日早朝、やっとチケットが届いた。私が電話していなかったらどうなっていたのだろう。ホテルの名前と道順もメールで送られてきた。

5月6日は6時発の“のぞみ”で東京へ、9時6分着。この日は二人で国立科学博物館で「ナスカ展」を見たり、アメ横を歩いたりした。「ナスカ展」にはとても感銘を受けた。混雑していて、ゆっくり見学できなかつたのが残念だった。

夕方6時ごろ渋谷駅前から乗ったタクシーは狭い道をめっちゃめっちゃ飛ばし、もう少しのところで対向車と衝突しそうになった。こんな狭い道へ入った言い訳か、「連休で道が混んでしまって」という。少し遠回りしているのではないか。

18時過ぎチェックイン。娘はどこかへ出かけていった。私は近所のローソンで弁当を買ってきて食べた。Nさんより8時半ごろ電話あり。今頃何かと思つたら、ロケで作ったパネルを送ってくれたかとの問い合わせだ。そういえば送るようにならされていたかな、忘れてしまっていた。Nさんも今日まで確認しなかつたらしい。何とかするとのことだがどうするのだろう。それから明日は13時ごろ

までには入って欲しいという。私は他の人の収録も見たいので 11 時には行く予定だと伝えた。そのあと N さんは、今晚は一晩中 NHK にいるので何かあれば電話して欲しいという。何があるのだ、収録前夜で私が精神不安に陥るとでも思っているのだろうか。たしかに私は旅行に出ると必ず眠れない。最近では眠れなくても次の日には必ず眠れるのだから、と気にしないことにしている。しかし今回は翌日にテレビの収録という大仕事が残っている。寝不足になると頭の回転が鈍くなり、言葉がつかえる。こうなるとはいけないので睡眠薬をもらってきた。これを飲むといつものまにか眠っていた。

5月7日、7時過ぎ起床。ホテルに頼んでいた朝食を食用意していると、また N さんが電話をかけてきた。もし時間があればちょっと来て見て欲しいという。余程心配されているのだろう。

NHK の玄関には最初にメールをくれた M さんが待っていた。彼女は化粧気のほとんどない小柄で誠実そうな女性であった。

まず控室へ案内された。扉には大きな紙に“船曳和代様”と書かれて張り出されていた。スタジオからは少し遠いが立派な個室だ。場所だけ確認してすぐにスタジオの方へ。スタジオ前の廊下は広いスペースで、長椅子がいくつも並んでいた。そしてその日の出演者やスタッフが大勢集まっていた。N さんはこれまでより忙しそうに、いきいきとした表情で仕事をしていました。

ちょっとこちらを見てください、と言われてスタジオに入ると、そこはだだっ広い講堂のようなところだった。正面の“熱中人紹介”のスペースだけが明るく、他は薄暗い。正面に向かっていくつものカメラが並んでいた。そしてカメラマンや大勢のスタッフの方が忙しそうに働いていた。

反対側の一角にはパルテノン神殿風に白い円柱が並び、その前に私の網のパネルがイーゼルに立てかけて並べてあった。なるべくたくさん並べたいということで 100 枚以上送ったのに、並べられているのは 10 枚そこそこ。ほとんどが箱にはいったままだ。その上肝心の姫路のロケで採ったユノハナサラグモの網は送り忘れていて、誰も気が付かない。

この後、代用するユノハマサラグモの網を箱から出したり、どの網をイーゼルに立てかけるかを決めたりした。美しさは勿論であるが、面白い説明が出来そうな網、採るのに苦労した網などを中心に、私の意向も汲みながら並べられた。もう少したくさん並べられたらと思った。私はすでにセットは完璧にできあがっているものだ、とばかり思っていたので少しショックであった。

別の一角には古い少女雑誌を集めている男性熱中人のためのセットが組んであった。少し後でその男性と話す機会があり、100 枚以上送ったのに並べてあるのはたったの 10 枚そこそこです。と言うと、僕もですよ、何百冊と送ったのですが……、とのこと。この方は別のディレクターの担当だったが同じなのだ。

この後は廊下の長椅子に戻り Nさんと打ち合わせ。最初に出方を教えられた。まず「熱中ゲートオープン」でゲートが上がり登場する。そこで紹介をするが、そこではまだアナウンサーを除いて他の出演者には、何に熱中している人か分からない、次にアナウンサーがアシナガサラグモの網を見せ、これに熱中していると人だと紹介する。皆分からないのでいろいろ訊いてくる、その時にすぐにクモの網だと言わないで引っ張って欲しい、しばらくしてから今度はサガオニグモの典型的な円網のパネルを出す。そこではじめてクモの巣に熱中している人だということが分かるという流れだ。

台本はないが Nさんの手の中にはだいたいの流れが書き込まれたものがあった(私には見せてくれなかったが)。そしてまたエピソードや網の採集をし始めたきっかけなどを訊かれた。途中で本番中の会話の練習だ、どれぐらい私が話の流れについていけるかということを見ているのだと気づいた。たとえば「クモと主人ではどちらをとりますか」「うーん、クモかな」「それでは「娘さんとクモでは」「勿論娘です」など。以前 Nさんに「スムーズに言葉がでてくるかどうか心配です」と伝えていたので、私の気持ちをリラックスさせる意味もあったのだろう。

その日スタジオでは2日分の収録が行なわれた。常に中ではリハーサルや本番が行われ、廊下のテレビでは中で行われている収録風景や、ロケで撮ったものを編集したものが流れていた。大きな声でしゃべらない限りスタジオ内の見学は自由であった。またこの日の収録は「熱中時間」だけであったが、ついこの間までは隣のスタジオで「マチベン」の収録が行われていたらしい。ちょっと見たかったのに、と思った。

一段落して昼食の弁当が搬入され、私も娘も一つずつもらって控室で食べた。これがNHKの弁当か、と写真を撮ったりしたが、これを含めすべての写真を誤って消してしまい1枚もなくなった。弁当がどんな弁当だったか覚えていない。ほとんど記憶に残らないような普通の弁当だったということだ。

その後、時間があるのでスタジオパークの見学にいきたい、と Nさんに場所を尋ねると「こことは別の建物です。かなりありますよ、それにあそこは広くて迷路のようなところですよ。行ったら迷われますよ」などという。横にいた Mさんまで「私も何度かいったことがあります、本当にわからなくなります」と行くのは止めておけと暗に匂わせている。行って迷って時間に間に合わなくなったりしたら大変だと思っているらしい。

また他の人のカメラリハーサルなどを見て過ごした。廊下はそうでもないがスタジオ内は冷房がよく効いており寒いくらいだ。Mさんがずっと私について何かと面倒を見てくださった。彼女の働いている“ノマド”という会社は、リサーチを担当しているらしい。毎回適当な“熱中人”を探し出すのは大変なことのようだ。今回も私のホームページに出合ったときはほっとしたらしい。

やっと前半の「童心忘れるべからず」の本番が始まった。カメラリハーサルでは中川アナウンサーと、熱中秘密捜査官に扮したお笑いタレントの石井正則さんは加わるが、研究所長に扮するタレントの薬丸裕英さん、教授役の大山さん、研究員役でタレントの平山あやさんは本番だけである。教授役の大山さんは以前団地熱中人としてこの番組に登場した人らしい。今は準レギュラーに起用されている。

2番目に登場した少女雑誌を集めている熊本の村崎さんのコーナーでは、雑誌を並べた部屋でおしゃべりする場面があった。その時、勉強机の前の椅子には、髪をお下げに編んで、赤い可愛い服を着た女の子が座っていた。これは石井さんの女装で小柄な彼にはとてもよく似合っていた。でもなんとなく定番の演出という気がした。

石井さんは、リハーサルの時から本番までこの格好で廊下を行ったり来たりする。娘は記念にと、この姿の彼と二人でカメラに取まった。でもこの写真も消えてしまった。

村崎さんのコーナーは別のディレクターの担当だったが、あまり盛り上がりのない静かな話に終始し、薬丸さんや平井さんは少し白け気味だ。70歳近い男性で、私も同じだが今の若い子のような盛り上がりを期待されても無理だ。

そして5時前、いよいよ「つながる幸せ」のリハーサルが始まった。一人目は「点線国道熱中人」の松浪さん。最初点線国道とはどういうものか説明するが、なかなか観ていて理解できない。パネルの出し方や機械の操作もスムーズにいかずもたもたして時間がかかってしまった。男性の表情も緊張で固い。かなり手直しが必要だ。

いよいよ私のカメラリハーサルが始まった。Nさんは、前半の二人がとても静かな話しぶりだったので、私にはとにかく笑顔で元気にいって欲しいとのことだ。薬丸さんの代わりはNさんがやり、平山さん、大山さんの代わりには別のスタッフが加わった。時間がおしている、とのことでゲートオープン場面は省略、開いたところから始まった。打ち合わせどおりアシナガサラグモの網を見せるところから出発、少し話のやり取りをした後、サガオニグモの網が出されるという流れで会話がスムーズに進んだ。その後イーゼルに立てかけた網のパネルのほうへ移動、ジョロウグモ、オウギグモ、ジグモ、ゲホウグモ、スズミグモなどの網の特徴や採集の苦労話などを話していった。そして最後に私が採集した網を元にして作っている作品のコーナーがありそれを紹介して終わった。

立つ位置など少し注意されたがスムーズにカメラリハーサルは終わった。Nさんは、リハーサル前はかなり心配だったらしい。終わると「全然大丈夫じゃないですか、あれでいいですよ」と笑顔でOK、私もほっとした。

私よりむしろ松浪さんの方が直すところが多そうだ。Nさんがその後、横につ

いて指導されていた。私の方は、Mさんがまたこれまでと同じようなことを復習するように聞いてくる。何度も同じことをしゃべられるのに閉口した。

実際、最初に電話取材を受けてから終わるまで、数えてみると6回はしゃべっている。しゃべる日によって内容は少しずつ変わることもある。例えば「今手元に何枚くらい収集したのがありますか」という質問に、初めは1000枚と答えたらしい。そして次に1000枚～2000枚と答えると、すかさずNさん「この間は1000枚と言われましたよ」と、細かいことは覚えているのだ。これでは、何度も同じことを尋問して食い違いを追及する警察官のようではないかと思った。

その後しばらくして、Nさんがまたやってきた。リハーサルの時にはなかったが、最後に将来の夢はと訊くのでどう答えますかという。私はパラグアイには一つ一つの円網を繋ぎ、集団で大きな一枚の網にするオニグモの仲間のクモがすんでいると聞いている。その網を採りにいきたい、と答えた。Nさんは、それは何というクモかちゃんとした名前でも答えて欲しいという。以前聞いた記憶があるが覚えていない。加藤輝代子さんに訊けば分かるがあいにく電話番号は分からない。そこで榊元さんに電話し、教えてもらって加藤さんに電話した。彼女の家では折しもクモゼミが開かれていたらしい。携帯電話では名前がうまく聞き取れずMさんに代わってもらった。落ち着いているようでもどこか気持ちは上の空なのだ。

～つながる幸せ～の本番が始まったのは7時半頃。まず松浪さん。リハーサルの時とは打って変わり笑顔で話の流れもスムーズだ。Nさんのアドバイスで、短時間によくここまで変ったと思う。

いよいよ私の番だ。Nさんからは、私が「竹の子」という紙を出したら竹の子泥棒と間違えられた話を、もう一つはなんだったか忘れたが、その紙を出したらその話をしてください、そして元気よくなるべくたくさんしゃべって下さい、と最後の指示を受けた。

木がむき出しになった舞台裏まで後退した椅子に座って、出を待つ。そして「熱中ゲートオープン」という掛け声と同時にゲートが開き、私は光の中へ出て行った。ほとんどドキドキしなかった。

アナウンサーや他の出演者たちとのやり取りで、どんどん話が進んでゆく。日本蜘蛛学会の話も出て、「今年は東京で大会がありますから、皆さんも是非お越しください」なんてことも言ったがカットされていた。パネルのほうへ移動する前に「竹の子」の話を入れたかったらしい。少し前からNさんが紙に「竹の子」と書いて出していたのに、他の話にも夢中の私は気が付かない、アナウンサーも私の話を切って質問するきっかけをつかみかねていたようだ、やっと私も気が付きかろうじて竹の子のエピソードが入った。落ち着いているようでも、周りを見る余裕を失っていたのだ。

その後はパネルの方へ移動、いろいろなことを次々としゃべった。最後に「将

来の夢は」というアナウンサーの質問に「パラグアイへ行って集団円網を張るニャンドウテイグモの網を採りに行きたい」というと、「どうです、NHKさんで企画してみてもは」と返ってくるなごやかな雰囲気が終わったが、このシーンはすべてカットされてしまっていた。あんなに大騒ぎして電話をかけ、クモの名前を覚えたのに、あれはいったい何だったのだろう。

あつという間に収録は終わった。私としては15分ほどしかしゃべらなかつたように思う。娘に言わせると結構ながながとしゃべっていたらしい。実際そうなのだろう。Nさんは「正直こんなにやってもらえるとは思っていませんでした」とのこと。おせじ半分とは思ったが嬉しかった。「でもどんなにしゃべってもNさんの考え一つで編集されてしまうんですから」というと「そんなに悪意を持ってやるわけではありません」と苦笑していた。

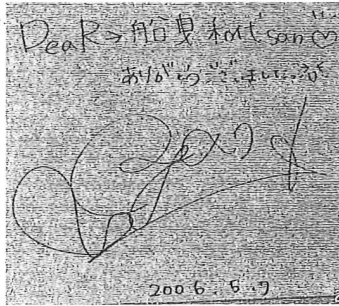
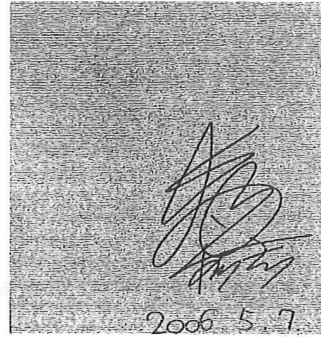
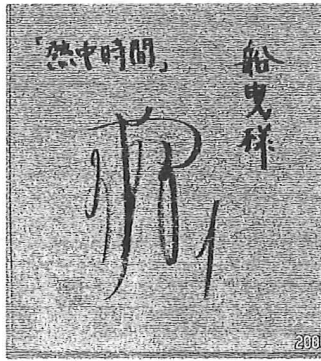
顔写真を撮るため廊下で待っていたら、薬丸さん、平井さん、石井さん、中川アナウンサーなどが次々帰っていった。みんな気さくにどちらからともなく笑顔で「ありがとうございました。ごくろうさまでした、お疲れ様でした」と声を掛け合い、一瞬、心と心が触れ合ったようなさわやかな気持ちになった。事前に金色で色づけした網を載せた色紙を用意し、サインをお願いしていたが、それにも気持ちよく応じて下さった。

すべてを終えてホテルへ帰りついたのは23時近くになっていたと思う。ハイテンションで1日中しゃべりまわり、軽い興奮状態でその後のことはほとんど覚えていない。

放送日は6月2日と聞いていたので5月16日に馬場氏に頼んでクモネットに流してもらった。ところがその日、Nさんより放送は7月14日に延びたと電話が入った。あわてて取り消しのメールをまた流してもらった。最後までどたばたしたがやっと7月14日に放送が終わり、春以来の私の身に起きた“騒動”が終わった。

放送されたものを見て、もっといろいろな網を紹介して欲しかった、将来の夢の場面は入れてほしかった、などいくつか不満もある。よかった点は、オウギグモやジョロウグモが網を張るシーンの挿入で、私の説明がより分かりやすくなっていたことだ。

最後にこのテレビ出演に際し、宮下直氏、緒方清人氏、加藤輝代子氏、榊元夫妻など、たくさんの方に助けていただいた。皆さんありがとうございました。(下は薬丸さん、平山さん、石井さんにもらったサイン)



関西クモ研究会 2005 年度例会の記録

2005 年 12 月 25 日 (日) に四天王寺高等学校 (大阪市天王寺区) で 2005 年度の例会が開催された。

役員会

例会に先立って、役員会が開かれた。出席者：山野忠清 (会長)、吉田真 (編集)、加村隆英 (庶務・会計)、西川喜朗 (顧問)、田中穂積 (会計監査)。

(1) 2006 年度の行事予定

・採集会：2006 年 5 月 28 日 (日) および 2006 年 9 月 23 日 (土)、いずれも大阪城公園を予定。【注：当初、第 1 回目の採集会実施日を 5 月 28 日に決めたが、当日は大阪城公園において「全国都市緑化おおさかフェア」の開催期間中であることが後日分かったため、会長、庶務担当者、顧問の間で協議し、採集会の日程を 1 週間遅らせて、6 月 4 日 (日) に変更することとした。】

・例会：2004 年 12 月 23 日 (土)、場所は四天王寺高等学校を予定。

(2) 「くものいと」の発行

37 号を 2005 年 5 月に、38 号を 2005 年 12 月に発行した。2004 年度においては、36 号しか発行されておらず、本来の 2004 年度の 2 号目 (37 号) の発行が 2005 年度にずれ込んでいる。年に 2 回の発行を原則とするならば、2005 年度中

に 39 号を発行すべきであるが、3 か月間で編集・発行を行うことはむずかしいので、39 号を 2006 年度のできるだけ早い時期に発行するよう努力することとする。

(3) 庶務・会計報告

現在の会員数は 80 名。

例会

出席者：赤松史憲，荒川真子，池田幸二，池田勇介，加村隆英，黒田あき，小池直樹，小池牧子，座古禎三，清水裕行，関根幹夫，田中穂積，谷川明男，徳本 洋，西川喜朗，原口 岳，船曳和代，松本吏樹郎，村上協三，山野忠清，吉田 真（計 21 名）。

講演発表

- (1) 関根幹夫：コガネグモとオオシロカネグモの水面落下を避ける行動の比較
- (2) 谷川明男：沖縄島・大東島日記
- (3) 清水裕行：なにわのナチュラルリスト展・八木沼健夫先生のコーナーの紹介；青少年科学展の紹介；ゴケグモ類に関する情報
- (4) 徳本 洋：中山間地における人文的環境の急変が自然環境に与える影響
- (5) 松本吏樹郎：クモヒメバチ類について

なお、講演の合間に、役員会で審議・報告した内容を出席者に紹介し、了承を得た。

関西クモ研究会 2005 年度会計報告

収入： 2004 年度からの繰越金	178,221
会費過年度分入金	5,000
会費 2005 年度分入金	24,000
会費 2005 年度前受け分繰り入れ	41,000
寄付	10,000

合計 258,221

支出： くものいと No. 37, 38	表紙用紙	2,779
同上	印刷費	36,000
同上	裁断料	3,000
同上	郵送用封筒	840
同上	郵送費	23,460
採集会・例会の案内ハガキ	印刷費	2,340
同上	郵送費	11,700
その他郵送費・運搬費		1,860

2006年度への繰越	176,242
=====	
合計	258,221

会費前受け状況 2005年度末における会費前受け分の合計は、64,000円である。その内訳は次のとおり。2006年度分、40,000円；2007年度分、14,000円；2008年度分、5,000円；2009年度分、3,000円；2010年度分、1,000円；2011年度分、1,000円。

寄付拝受 会員のお一人（匿名希望）から寄付（10,000円）を頂戴いたしました。厚くお礼申し上げます。

上記のとおり、報告します。

会計担当 加村隆英

会計監査報告

会計に関する書類を監査した結果、正確に処理されていることを認めます。

2006年4月23日 会計監査 田中穂積

編集後記

39号をようやく発行できることになった。皆さんの協力でたくさんの原稿が集まった。とても感謝しています(吉田)。

〈関西クモ研究会〉	会長	山野忠清
	編集	吉田 真
	庶務	加村隆英
	会計	加村隆英
	会計監査	田中穂積
	顧問	西川喜朗

くものいと 39号

発行 2006年9月30日
関西クモ研究会(代表:山野 忠清)
事務局(担当:加村 隆英)
567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15
追手門学院大学 生物学研究室
E-mail kamura@res.otemon.ac.jp